

自己点検・評価報告書

－2020年度－

文化学園大学
文化学園大学短期大学部

『2020年度 自己点検・評価報告書』 作成にあたって

文化学園大学及び文化学園大学短期大学部では、教育の内部質保証のために、2006年度から毎年、全学的な自己点検・評価活動を実施しています。この活動は、将来構想委員会の自己点検・評価の基本方針のもとに、全学自己点検・評価委員会が自己点検・評価報告書を作成することにより実施してまいりました。報告書には、本学の教育研究等にかかわる自己点検・評価検討機関ごとに、「本年度の課題」「取組の結果と点検・評価」「次年度への課題」のほか、エビデンスとして「会議等の開催記録」が掲載されています。2020年度は、学内の41検討機関、学園本部の4検討機関における結果をとりまとめました。記載文中の【大】は大学独自の事項、【短】は短期大学部独自の事項、【共】は大学と短期大学部に共通する事項を示しています。

報告書の執筆に際しての評価基準は、公益財団法人日本高等教育評価機構による評価基準を基本としています（以下の基準1～6）。このほか、本学が個性・特色として重視している独自基準には、「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」があります（以下の基準A, B）。本報告書には、46検討機関が上記の基準に沿って自己点検・評価した結果がまとめられています（冒頭に検討機関と基準及び基準項目との対応表を掲載）。

基準1. 使命・目的（使命・目的、教育目的）

基準2. 学生（学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）

基準3. 教育課程（卒業認定、教育課程、学修成果）

基準4. 教員・職員（教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）

基準5. 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）

基準6. 内部質保証（組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル）

基準A. 特色ある教育研究と社会貢献

基準B. 国際交流

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、多くの科目がオンラインを併用する変則的な授業形態となりました。また、大学行事の中には、残念ながら中止とせざるを得ないものもありました。しかし、教育の質は、いかなる状況下においても保証されなければならないという使命のもとに、オンラインと対面を効果的に組み合わせた新たな教育方法が構築されつつあることも事実です。山頂への登山道が多様であるが故に状況に対応することができるように、学則に掲げられた「大学の使命」という共通の目的（山頂）を教職員全員がしっかり共有することにより、今後は、教授法も多様かつ柔軟に展開されていくことになると思われます。

大学教育の内部質保障は、各検討組織における課題及び結果の記述に留まることなく、結果に対する客観的な点検・評価及び改善の方針が明確化され、PDCA サイクルが有効に機能することにより、はじめて継続的なものとなります。本報告書を学内の各組織における改善の指針として有効に活用していただければ幸いです。

全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保障を推進するために、今後とも継続して全学的かつ自律的な自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。つきましては、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

2021年8月1日
全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成13年度(2001)』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成17年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成18年度—』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成19年度—』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成20年度—』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成21年度—』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成22年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成22年度—』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成23年度—』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成24年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成24年度—』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成25年度—』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成26年度—』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成27年度—』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成28年度—』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成29年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成29年度』
18. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成29年度—』
19. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2018年度—』
20. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—2019年度—』

文化学園大学

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※ は対応していることを示す

検討機関名	基準1 使命・目的等		基準2 学生						基準3 教育課程			基準4 教員・職員				基準5 経営・管理と財務					基準6 内部質保証			基準A 特色ある教育研究と社会貢献			基準B 国際交流				
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2			
	使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映	学生の受入れ	学修支援	キャリア支援	学生サービス	学修環境の整備	学生の意見・要望への対応	単位認定、卒業認定、修了認定	教育課程及び教授方法	学修成果の点検・評価	教学マネジメントの機能性	教員の配置・職能開発等	職員の研修	研究支援	経営の規律と誠実性	理事会の機能	管理運営の円滑化の相互チェック	財政基盤と収支	会計	内部質保証の組織体制	内部質保証のための自己点検・評価	内部質保証の機能性	大学が持っている物的資源の活用と社会への提供	大学が持っている人的資源の活用と社会への提供	教育研究活動を通じた社会貢献	留学生教育	国際交流センターを中心とした取組み			
協議・審議機関	大学運営会議（将来構想委員会）																														
	全学自己点検・評価委員会																														
	全学F D委員会																														
協議機関	服装学部協議会																														
	造形学部協議会																														
	学部共通科目協議会																														
	国際文化学部協議会																														
大学院	生活環境学研究科委員会																														
	国際文化研究科委員会																														
	学部	教授会																													
		服装学部教授会																													
造形学部教授会																															
審議機関	常置	国際文化学部教授会																													
		教務委員会																													
		学生支援委員会																													
		入学対策委員会																													
審議機関	特別	就職委員会																													
		研究委員会																													
		研究倫理委員会																													
		研究公正委員会																													
		研究活動不正防止委員会																													
		公開講座実行委員会																													
		ハラスメント防止委員会																													
		障害学生支援委員会																													
		学部専門	衣料管理士課程専門委員会																												
			建築・インテリア系資格専門委員会																												
文化・語学研修専門委員会																															
日本語教員養成課程専門委員会																															
課程専門	教職課程専門委員会																														
	学芸員課程専門委員会																														
	司書課程専門委員会																														
附属機関	国際交流委員会	国際交流委員会																													
		文化学園大学図書館																													
		文化学園服飾博物館																													
		文化学園ファッションリソースセンター																													
		文化学園国際交流センター																													
共同研究拠点	文化ファッション研究機構	文化ファッション研究機構																													
		文化・衣環境学研究所																													
		文化・住環境学研究所																													
		文化・ファッションテキスタイル研究所																													
事務局	教務部	教務課																													
		学事課																													
	学生部	学生課																													
		入学広報課																													
	研究協力室																														
学園本部等	全学S D委員会																														
	学園就職支援室就職支援一課																														
	文化学園学生支援センター																														
	総務部																														
	施設部																														
経理部																															
IT委員会																															

文化学園大学

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

	検討機関名	担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学FD委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. B-2
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6. B-1
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究所の交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4. A-1. A-3
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4. A-1
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関する必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-5. 2-6	
学部専門委員会	衣料管理士課程専門委員会	衣料管理士免許状の取得に関する事項	衣料管理士専門課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、テキストアドバイザー実習関係等、衣料管理士資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	建築・インテリア系資格専門委員会	建築インテリア系資格の取得達成に寄与する	建築・インテリア系受験資格に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、建築・インテリア系受験資格の認定に関する事項、資格取得の支援方法に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	文化・語学研修専門委員会	文化・語学研修に関する事項	文化・語学研修の教育方法に関する事項、文化・語学研修の学生指導に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	日本語教員養成課程専門委員会	日本語教員養成課程修了資格の取得達成に寄与する	資格課程の全体計画、カリキュラムの編成その、履修方法など、修了資格の取得達成に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
課程専門委員会	教職課程専門委員会	教育免許状の取得達成に寄与する	教育課程の全体計画、カリキュラムの編成、その履修方法並びに教育実習の年間計画等を策定し、かつ各部会の連絡調整	3-1. 3-2. 3-3
	学芸員課程専門委員会	学芸員資格の取得達成に寄与する	学芸員課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、学芸員資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	司書課程専門委員会	図書館司書資格の取得達成に寄与する	司書課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、司書資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の国外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	B-1. B-2	

文化学園大学短期大学部

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※ は対応していることを示す

検討機関名	基準1 使命・目的等		基準2 学生				基準3 教育課程			基準4 教員・職員				基準5 経営・管理と財務					基準6 内部質保証			基準A 特色ある教育		基準B 学外への学修成果の発信						
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	B-1	B-2			
	使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映	学生の受入れ	学修支援	キャリア支援	学生サービス	学修環境の整備	学生の意見・要望への対応	単位認定、卒業認定、修了認定	教育課程及び教授方法	学修成果の点検・評価	教学マネジメントの機能性	教員の配置・職能開発等	職員の研修	研究支援	経営の規律と誠実性	理事会の機能	管理運営の円滑化の相互チェック	財政基盤と収支	会計	内部質保証の組織体制	内部質保証のための自己点検・評価	内部質保証の機能性	本学が持つ人的・物的資源を生かした教育への取り組み	特色ある教育を通じた社会的活動への取り組み	特色ある教育における学外への学修成果の発信	教育活動の学外への学修成果の発信			
協議・審議機関	大学運営会議（将来構想委員会）																													
	全学自己点検・評価委員会																													
	全学F D委員会																													
協議機関	短期大学部協議会																													
審議機関	常置	教授委員会																												
		教務委員会																												
		学生支援委員会																												
		入試対策委員会																												
	特別	就職委員会																												
		研究委員会																												
		研究倫理委員会																												
		研究公正委員会																												
		研究活動不正防止委員会																												
		公開講座実行委員会																												
附属機関	ハラスメント防止委員会																													
	障害学生支援委員会																													
	文化学園大学図書館																													
	文化学園服飾博物館																													
	文化学園ファッションリソースセンター																													
共同研究拠点	文化学園国際交流センター																													
	文化学園知財センター																													
	U S R 推進室																													
	文化ファッション研究機構																													
附属研究所	文化・衣環境学研究所																													
	文化・住環境学研究所																													
	文化・ファッションテキスタイル研究所																													
	和装文化研究所																													
事務局	教務部	教務課																												
		学事課																												
	学生部	学生課																												
		入試広報課																												
	研究協力室																													
全学S D委員会																														
学園本部等	学園就職支援室	就職支援一課																												
	文化学園学生支援センター																													
	総務部																													
	施設部																													
	経理部																													
I T 委員会																														

文化学園大学短期大学部

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

	検討機関名	担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学FD委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. A-1
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究所の交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関する必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-6
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の海外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	2-4. 2-5. 2-6	

目 次

『2020 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって	2
文化学園大学 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	4
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	5
文化学園大学短期大学部 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	6
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	7
協議・審議機関	
大学運営会議・将来構想委員会	12
全学自己点検・評価委員会	13
全学FD委員会	14
協議機関	
服装学部協議会	18
造形学部協議会	20
学部共通科目協議会	22
国際文化学部協議会	24
短期大学部協議会	26
審議機関	
大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	30
国際文化研究科委員会	31
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	33
常置委員会	
教務委員会	34
学生支援委員会	36
入試対策委員会	38
就職委員会	40
特別委員会	
研究委員会	42
研究活動不正防止委員会	44
研究倫理委員会	46
公開講座実行委員会	47
ハラスメント防止委員会	48
障害学生支援委員会	49
学部専門委員会	
衣料管理士課程専門委員会	50
建築・インテリア系資格専門委員会	52
文化・語学研修専門委員会	53
日本語教員養成課程専門委員会	54
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	56
学芸員課程専門委員会	58
司書課程専門委員会	60
国際交流委員会	62

附属機関等	
文化学園大学図書館	64
文化学園服飾博物館	66
文化学園ファッションリソースセンター	68
文化学園国際交流センター	69
文化学園知財センター	70
USR 推進室	72
共同研究拠点	
文化ファッション研究機構	74
附属研究所	
文化・衣環境学研究所	78
文化・住環境学研究所	80
文化・ファッションテキスタイル研究所	82
和装文化研究所	83
事務局	
全学 SD 委員会	86
学園本部	
学園本部総務部	88
学園本部施設部	89
学園本部経理部	90
IT 委員会 (IT 戦略室)	91
附：委員会委員一覧表	附 2
学部・学科・コース編成	附 4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6

協議・審議機関

■検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各検討会、将来構想委員会等の検討結果を、さらに「大学運営会議・将来構想委員会」での議論に移し、中期計画に添う実績の可視化を期す。 2. 「オンライン授業のシステム」と「教育の質保証」との関係を検討課題とするとともに、ラーニング・ポートフォリオ（以下「LP」）を通じた点検方法を検討する。 3. 入試制度の変更と学生募集の関係を点検する。 4. 現代文化学部応用健康心理学科と短期大学部ファッション学科の教育方法を、他学部・他学科へ発展的に継承する方策を検討する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「若手教職員を交えた将来構想委員会」から「中間のまとめ2」を提出された。本委員会で、それについて議論した。2021年度秋の「答申」を待って、議論をさらに進めることとした。 2. 「オンライン授業」について、その実態と学生の反応などについて検証した。その結果「教育の質保証」に関する諸問題を整理した。その観点から、2021年度のオンライン授業についての方針を策定した。 3. 入試もオンラインに依拠せざるを得ず、入試制度の一部を修正し、今後の手直しの一助とすることとした。 4. 現代文化学部応用健康心理学科と短期大学部ファッション学科の教育方法を他学部、他学科へ移管すべく、教員の出講を加速化させることとした。 【共】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学全体の教育システムとカリキュラムの検討をより広範な観点から進める。 2. 「オンライン授業」と「LP」の関係を検証し、教育の質保証について、2021年度の経過を参考にする。 3. 入試制度のより具体的な変更が必要となる状況を検証し学生募集に役立てる方法を検討する。 4. 教員の配置、カリキュラムの検討など、現代文化学部応用健康心理学科と短期大学部ファッション学科の基本とするところを、発展的に活用する方法を議論する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2020年6月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長より新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのオンライン授業等について説明 2. 2020年度前期の各学部報告（オンライン授業・対面授業等について） 各学部等の状況について学部長、主任教授、研究科長より説明 3. 2019年度事業報告について 事務局長より説明 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部文化学園創立100周年に向けた中期計画 2019年度結果について 事務局長補佐より説明 5. 若手教職員を交えた将来構想委員会報告 委員長より説明 6. その他 ○研究活動活性化のための具体的方策について 事務局長より説明 ○オンライン授業の出欠席の考え方について ○学生の新型コロナウイルス感染症感染について 事務局長より注意喚起について説明
2020年10月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長より装苑賞公開審査会の結果報告 2. 2020年度の「オンライン授業」の現状と今後の計画について 各学科主任教授、研究科長より説明
2021年2月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長より新型コロナウイルス感染症に対する対応等について報告 2. 2020年度の「オンライン授業」の現状と今後の計画について 各学部等の状況について主任教授より説明 3. 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインの改定について 研究活動不正防止委員会委員長より説明
2021年3月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若手教員を交えた将来構想委員会からの中間報告 委員長より、「2024年度以降の教育体制の在り方に関する提案 中間のまとめ2」について報告を受け、意見交換を行った。 2. 2021年度授業体制等について コロナ禍における授業体制、海外留学プログラムの中止等について事務局長より報告 3. 2021年度事業計画について 理事会・評議員会で承認を得たものを配付 4. 2021年度3つのポリシーについて 各学部学科で再検討したものを、2021年度に大学ホームページに公開することを報告

■検討組織名： 全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2019年度-』のまとめと公表 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』の見直しと作成 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部の43検討機関、文化学園本部の4検討機関の計47の検討機関による自己点検・評価結果をまとめた自己点検・評価報告書を作成した。報告書は学園運営会議での確認を経た後に、2020年10月1日付けで学内及び関連部署へPDFで配信するとともに、本学ホームページにおいて外部に公表した。 2020年度も「自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応」の表を執筆要項に加えて、47検討機関が日本高等教育評価機構の認証評価の基準に沿って自己点検・評価する形式とした。また、本学が2017年度に受審した機関別認証評価において独自基準として設定した「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」についても、自己点検・評価の基準として執筆要項に明示した。「取組の結果と点検・評価」の記載に際しては、結果の列挙にとどめることなく、結果に対する自己評価についても記載するように、その主旨を執筆要領に明記するとともに、教授会において知らせた。 以上のことから、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2019年度-』のまとめと公表については、滞りなく実施されたと評価できる。 2. 本学の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式、執筆要領及びスケジュール等を再検討した。 第2回の委員会(2020年10月27日開催)では、本学の自己点検・評価報告書の今後の作成方針について意見交換を行った。その結果、①本学の自己点検・評価活動は、文化学園大学将来構想委員会(大学運営会議)が基本方針と実施計画を決定し、本員会はこれを受けて報告書のとりまとめを行うことが業務であるので、両会議体の位置付けを認識すべきであること、②前年度に「次年度の課題」として挙げた事項は、もれなく「本年度の課題」並びに「取組の結果と点検・評価」に記載して、継続的な自己点検・評価とする必要があること、③大学を取り巻く社会状況の変化も激しいため、「本年度の課題」には、前年度に「次年度の課題」として挙げていなかった新しい課題が書かれてもよいこと、④自己点検・評価は「目的」ではなく、教育の内部質保証のための「手段」であるので、無理のない範囲で簡潔な報告書とすることを心掛けるべきであること、などの意見が出された。②については、2021年1月の教授会において全学に知らせた。 原稿提出締め切りは2021年4月1日とし、2021年1月の教授会にて執筆を依頼した。 以上のことから、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』の見直しと作成については、PDCAサイクルのもとに適切に実施されたと評価できる。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』のまとめと公表 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2021年度-』の見直しと作成 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2020年6月20日	<p>1. 委員の交代について 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2019年度-』の提出原稿の確認(軽微な修正報告) 3. 今後のスケジュール</p>
2020年10月27日	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2019年度-』完成版の確認(2020年10月1日発刊) 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』作成方法について(次年度に向けた問題点、改善点についての意見交換)</p>
2020年12月15日	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書-2020年度-』作成について(執筆要領、原稿依頼先及び添付資料の確認) 2. その他(原稿執筆依頼日及び提出日の確認)</p>

■検討組織名： 全学FD委員会

報告者： 昼間 行雄

提出日： 2021年3月31日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2. 2021年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」質問内容、集計方法の抜本的改革と「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施 4. 学生代表との対話の実施 5. 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度「全学FD・SD研修会」については、文部科学省OBの方を講師に迎えて4月2日に実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月においては、教員は在宅勤務となり、学内での集会等の催しは、密を避けるために全て中止となったため、「全学FD・SD研修会」も中止となった。「秋の分科会」と教職員による相互の授業見学「FD教職員による授業見学ウィーク」も感染拡大防止のため中止した。 2. 2021年度「全学FD・SD研修会」の企画については、2021年4月の新型コロナウイルス感染症に関する状況が不明なため、外部の講師を招かず内部の教職員を講師として行う開催方針とテーマ等を検討した。2020年度のほとんどの授業は、インターネットを用いたオンラインによる実施が行われたので、2021年度「全学FD・SD研修会」では、本学でのオンライン授業の経過を振り返り、従来の対面型の授業と異なる効果や問題点をFD・SDの視点から考察する内容とし、学内の教員が講師となり、2020年度のオンライン授業を色々な角度から振り返る講演を企画した。そして、情報IRWG(2020年度、2021年度よりオンライン授業アドバイザーグループ)主査に「情報IRワーキンググループ2020年度オンライン授業総括」を、学生生活支援室室長に「リモート授業における学生の心理状況」の講演を依頼した。新型コロナウイルス感染症が収束していない状況を考慮し、密を避けるために常勤の教職員のみ参加とし、オンラインを併用して実施することとし、また、午後の分科会は行わないこととした。 3. 2018年度に発足した「授業アンケート小委員会」で検討を重ねて改定し、実施をしている「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」によるアンケートを、2020年度前期・後期と実施した。結果の評価と教員へのフィードバック方法の検討と、本アンケートの回答率を高める方法としてネットを使ったGoogleフォームでの回答方法を採用しているが、二重回答が多い現状を改善するための方法を検討した。 4. 学生代表と全学FD委員会メンバーによる対話は、コロナ禍のため2020年度は実施しなかった。次年度は実施する予定。 5. 他大学、団体等の活動に関する継続した情報収集については、学外の対面型の催しがほとんど中止のため参加できなかった。しかし、ネットではオンライン授業に際して他大学のFD活動に関する情報等が多く掲載されていたので、それらの情報収集等をネットで行った。【共】
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 2. 2022年度「全学FD・SD研修会」、「分科会」、「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施と実施方法に関する改善の検討 4. 学生代表との対話の実施 5. 他大学・団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。【共】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年6月11日	1. 2019年度後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」のフィードバックの確認 (アンケート小委員会)
2020年7月7日	1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について、2019年度実施の経過報告と2020年度の実施案について確認 2. 2020年度秋の分科会の開催について、コロナ禍のため中止とする確認・決定 3. 2020年度授業見学ウィークの開催についてコロナ禍のため中止とする確認・決定
2020年11月18日	1. 2020年度前期科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の結果の確認とランキング対象科目の検討 2. 2020年度後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の準備 (アンケート小委員会)
2020年11月24日	1. 2021年度「全学FD・SD研修会」について、実施方法と内容の検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について小委員会からの報告
2021年1月19日	1. 2021年度「全学FD・SD研修会」について内容決定方法の確認 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について、2020年度後期・通年科目のアンケートの実施方法の改善について報告

協 議 機 関

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム体制の3年目となる2020年度は、多くの専門教育科目が設定されていることから学生の習熟度とともに新カリキュラムの良否が問われることとなる。そこで、LPとともに各教員が進めているティーチングポートフォリオ（以下「TP」）を活用した振り返りに力を注ぎ、新カリキュラム完成年度へ向けて微調整を行う。 【大】 2. 従来の90分授業15週から100分授業14週へ変更したことで、設定したシラバスと実施内容との整合性や教育方法等の確認をする。また、不都合が生じた場合の改善策も見出す。 【大】 3. 進級、卒業に関する学生支援（休・退学者の減少対策含む）のため、学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ、教員間の共通認識を高める学生指導マニュアルを確認する。 【大】 4. 大学生としての社会的責任の認識を目途とし、クラス活動やコラボレーション科目におけるボランティア活動（バザーを含む）や環境問題への取組みを教育等に取り入れる。 【大】 5. USR 推進室の活動の一つである、AP 事業の長期学外学修プログラムを、2020年度もコラボレーション科目として開講し、国内外での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。 【共】 6. 新カリキュラム施行3年目を受けて、各教員も服装学部の特徴を再認識し、基礎科目や専門科目の充実について、学外への公開方法を試行する。この公開は本学の社会的責任や学生募集に繋がることを意識する。 【大】 7. 授業期間14週を受け教員の時間活用の充実を図り、結果を教育の現場に還元させる。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度より開始した新カリキュラムは3年目を迎え、3年生の選択科目の充実を図るべく「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」を行った結果、新カリキュラムの内容も含んではいないが、オンライン授業における良否の表出が主となった。中でも毎回の提出物の点検から、学生の理解不足部分を見出すなど、新カリキュラムの改善やTP作成等に繋がる有用な資料を得ることができた。 【大】 2. 新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業等による内容の充実を図ることが優先され、1コマ100分の有効性を図ることは難しい結果となった。 【大】 3. オンライン授業の取入れに力を注いだことから、進級不可の学生を作らないための学年・科目ごとの横断的検討会を十分に開催することが不可能であった。 【大】 4. 新型コロナウイルス感染症の密回避策を重視し、ボランティア活動を中止した。 【大】 5. 4と同様にAP事業の国内外研修を中止せざるを得ない結果となった。 【共】 6. 学外へ向けての新講座として、ファッション造形学講座『パターンメイキングの捉え方』1冊とファッションデザイン学講座『ファッションデザイン』1冊の計2冊を発行した。 【大】 7. 新型コロナウイルス感染症対策により、オンライン授業の準備に多くの時間を費やした。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム体制の完成期（4年目）となる2021年度は、ディプロマ・ポリシーに沿った内容の充実を図り、カリキュラム改定の有効性を確認する。 【大】 2. 進級、卒業に関する学生支援（休・退学者の減少対策含む）のため、特に1年生のクラス間の意見交換や、1～4年生を通した学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ教員間の共通認識を高める学生指導マニュアルを確認する。 【大】 3. オンライン授業の中で有用性が認められる点については、新型コロナウイルス感染症の収束後も新しい大学教育の一部として構築することを検討する。 【大】 4. 大学生としての社会的責任、特に環境問題（カーボンニュートラルを含む）については、体験や学生が思考する場をクラス活動やカリキュラムの内容に取り入れる。 【大】 5. USR 推進室の活動の一つである、AP 事業を、2021年度後半のコラボレーション科目として開講し、国内での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。 【共】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月7日	1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止策について 2. 授業日程の修正と学生支援について 3. 新年度の確認事項(協議会の運営、学科会議の運営) 4. 人事関係(主任教授、研究室長)報告 5. 学内研究発表会の日程報告 6. 「卒業研究」発表会の開催方法について要検討
2020年5月12日	1. 学内研究発表会の日程報告 2. 第35回ファッションショー開催延期について 3. USR推進室の予定変更について(AP事業の見送り、地域活動の中止) 4. オンライン授業における服装学部の基本方針について 5. 「キャリアデザイン(展開編)」の見直し報告 6. 常置委員会の改選について経過報告
2020年6月16日	1. ファッションクリエイション学科のカリキュラム変更(科目名変更、科目の削除)審議 2. 第35回ファッションショーの開催方法と日程について 3. オンライン授業の経過報告 4. 対面授業における新型コロナウイルス感染症の3密回避策の準備について
2020年7月14日	1. 6月に審議されたファッションクリエイション学科のカリキュラム変更案を教務委員会へ提出済の報告 2. 学内研究発表会の登録応募について 3. USR推進室より2020年度計画の予定変更(エコプロ2020の参加見送り)報告
2020年9月1日	1. 学内研究発表会の登録件数報告と当日の参加依頼 2. USR推進室よりAP事業の事後評価報告
2020年10月6日	1. 新型コロナウイルス感染症の感染者増のため授業体制の変更を依頼 2. オープンキャンパスの開催変更(Web相談等を開催することへの協力依頼)について 3. 「卒業研究」発表方法の変更(Web配信等)について要検討 4. ファッションクリエイション学科第36回ファッションショーの企画教員選出報告 5. 学内研究発表会終了の御礼 6. 「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」の終了報告 7. 2020年度Web文化祭の準備経過報告 8. ファッション社会学科より「ファッション社会学基礎演習」の取得内容(1・2年次での未取得による学年進級不可となることへの対策方法)説明
2020年11月10日	1. 各研究室の管理教室における消毒方法についての報告依頼 2. 2021年度の「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」の検討依頼 3. 高校生ファッション画コンテスト(FIE)の表彰式について 4. 進学イベント「夢ナビ」への参加・終了報告 5. ファッションクリエイション学科第35回ファッションショーWeb配信終了報告 6. USR推進室より『社会人アンケート調査』の実施・協力依頼 7. ファッションクリエイション学科より『新カリキュラムによる3年生へのアンケート調査』報告 8. ファッションクリエイション学科より2年生に2021年度の『フィールド調査』依頼 9. ファッション社会学科より2021年度編入学希望者の単位認定について説明
2020年12月8日	1. ファッションクリエイション学科よりWeb文化祭配信の報告 2. ファッション社会学科より「キャリアデザイン(展開編)」終了報告 3. 「卒業研究」発表会日程報告
2021年1月12日	1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止策の緊急事態宣言を受け、授業体制の変更のお願い 2. ファッションクリエイション学科2年次におけるフィールド調査結果報告 3. ファッション社会学科より2年生対象の2021年度専門ゼミ募集について報告
2021年2月9日	1. 卒業研究指導への御礼(提出率92%) 2. UER推進室より『社会人基礎力アンケート調査分析』結果報告 3. ファッション社会学科より「卒業研究」発表会終了の報告
2021年3月9日	1. 「卒業研究」学長賞選出の学生名とテーマ報告 2. USR推進室より卒業生アドレス登録の依頼と2021年度AP事業開催の説明会日程報告 3. ファッション社会学科よりA0入試における評価方法の見直しについて報告

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アドミッション・ポリシーを基準にして、各種の入学試験における評価観点を整備する。 2. ディプロマ・ポリシーを基準にして、教育課程とコース編成の見直しを図る。 3. 学生の主体性を育成するための学修環境の整備を実施する。 4. デザイン・造形系の学生のキャリア支援策を検討する。 5. 退学者・休学者の原因を分析し、対処方法について検討する。 6. 教員の研究活動の活性化を図るための具体的方策を実行する。 7. 学外連携教育、特色ある教育の活性化と学外公表の促進を図る。 8. 卒業研究展の主旨を、「教育成果の公表」から「学生の学修成果の公表」に転換する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試に使用する評価観点の一部修正により、課題の一部が改善されたと評価できる。 2. デザイン・造形学科1年次の教育内容を3コース制の実態に合わせるために「デザイン基礎演習」を設置した。デザイン・造形学科の将来のコース編成については、研究室長会議において検討を進めてきたが、2021年度の継続課題とした。建築・インテリア学科は現状のとおりとした。 3. デザイン・造形学科の3年次のコース定員の増加に対応するために、演習室等のコンピュータを補充した。これにより、学生の主体的な学びの場を一部整備できたと評価できる。 4. デザイン・造形学科の就職率の低さは前年度からの課題となっていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の影響もあり、改善には至らなかった。デザイン・造形学科、建築・インテリア学科ともに、キャリア形成教育科目の抜本的な見直しをすることを2021年度の課題とした。 5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、例年より退学者・休学者が多い傾向にあった。しかし、原因の定量的な分析には至らなかったため、この点については2021年度の課題とした。 6. 新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、大学の施設を利用する研究については、その推進に支障をきたした。一方で、教員個人の作品制作、オンラインでの学外共同研究については、一定の成果を上げることができた。また、文化・住環境学研究所の2021年度共同研究については、造形学部からは6件の応募があり、学内の共同研究制度が有効に機能したと評価できる。 7. 学外連携教育として、「多摩産材を活用したインテリア小物のデザイン・制作」「長野県須坂市の古民家再生プロジェクト」「『染の小道』」「新宿中井・落合地域活性化プロジェクト」「ネクタイコラボレーション展」「デコブラインドのデザインと制作」を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、オンラインで実施した「ネクタイコラボレーション展」以外は、ほぼ中止となった。以上のことから、学外連携教育は十分な成果を上げることができなかった。特色ある教育は『造形学部年間教育活動報告集 (BZ)』にて学外公表することができた。 8. 造形学部の卒業研究展は、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点から、『第51回 卒業研究展 ONLINE 2021』と題して、2021年3月1～31日にオンライン展示により実施した。アクセス数は、公開後1週間で2,099件、1か月間で3,127件であった。新たな公表方法の可能性が拡大するとともに、卒業研究展の主旨も、「教育成果の公表」から「学生の学修成果の公表」という学生主体のものにすることができたと評価できる。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. LMS (学習管理システム) 及びオンラインを利用した新しい教育方法の構築 2. カリキュラム編成の妥当性の検証 3. 教育の質保証のための教育環境の整備 4. キャリア形成教育科目の見直し・改善 5. 休学・退学に至る背景の分析 6. 学外連携 (産学連携・地域連携・高大連携) の促進 7. 修学成果の学外公表の促進 【大】

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月23日	1. 人事異動について 2. 前期のオリエンテーション・授業実施方法
2020年5月26日	1. オンライン授業の実施状況について 2. 対面授業の開始について 3. 後期の学事日程・行事等について 4. 2020年度入学者数 5. その他
2020年6月16日	1. 新任の助手・副手の紹介
2020年7月8日 2020年7月12日 2020年7月22日	1. オンライン授業について 2. 対面授業について 3. 2020年度の造形学部卒業研究展について 4. 2020年度の学内研究発表会について 5. 2021年度カリキュラム変更の審議 6. その他
2020年9月14日	1. 「コラボレーション科目」及び後期授業について 2. 学内研究発表会について 3. オープンキャンパスについて 4. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 5. 文化祭について 6. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」について 7. 卒業研究展について 8. その他
2020年10月6日	1. 学内研究発表会を終えて 2. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」を終えて 3. オンライン授業についての情報交換会を終えて 4. 卒業研究展について 5. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」について 6. 入試方法の変更について 7. その他
2020年11月10日	1. 2020年度の卒業研究展について 2. 2021年度の学部共通経費について 3. キャリア形成教育科目の今後について 4. 2022年度の入学定員について、5. その他
2020年12月8日	1. 2020年度の「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」について 2. 2021年度の「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 3. 2022年度以降のキャリア形成教育科目の見直し 4. 2020年度のシラバス調整ワーキング 5. 2020年度の卒業研究展について 6. その他
2021年1月12日	1. 2020年度の「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」について（12/9以降実施分の報告） 2. 2020年度の卒業研究展について 3. その他
2021年2月9日	1. 一般入試A日程等の入試状況 2. 2021年度造形学部事業計画案について 3. 2020年度の卒業研究展について 4. その他
2021年3月11日	1. 2021年度の入試状況 2. 2020年度の卒業研究展について 3. 2021年度の卒業研究展について 4. その他

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度に策定したポリシーに基づき、本学の教養教育の在り方を具体的に検討する作業に入る。 【大】 2. 2020年度から実施する英語運用能力評価協会のテストについて、実施結果を検証し、さらに2021年度の実施に向けて準備をする。 【共】 中国語の学修環境改善にさらに取り組む。 【共】 3. 本協議会が扱うべき範囲と事柄を明確にする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。 【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。 【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. この課題については十分に検討できなかった。代わりに2020年度喫緊の課題であったオンライン授業を円滑に運用することに注力した。 【大】 2. 英語運用能力評価協会のテストの準備を進めていたが、オリエンテーションの中止により実施できなかった。そのため後期の授業の中で実力テストとして実施し、2021年度に備えた。中国語については担当教員の尽力で適正な人数に近い形でクラス運営が可能となった。 【共】 3. この課題についても、2020年度は十分な取組みができなかった。2021年度の課題とする。 【共】 4. オープンキャンパスが対面形式では開催されなかったため、2020年度は積極的な参画を見送った。2021年度のオープンキャンパス開催状況を見ながら検討していく予定である。 【共】 5. 12月12日に「第8回文化学園大学・教職研究会」をオンラインで実施した。活発な意見交換が行われ、有意義な研究会となった。 【共】 <p>点検評価</p> <p>2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな対応に迫られた。結果として2019年度に2020年度への課題として掲げた項目については十分な取組みができないものも多かった。それは2021年度以降へ引き継いでいくこととする。また、履修者の人数制限を行った結果、学生が希望する科目を履修できないという事態が生じた。その対応として「タイムシフト科目」という新しい試みを実施することとした。</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度も継続されるであろうオンライン授業について、さらに検討し、情報を共有していく。また、2021年度限定で「タイムシフト科目」を実施する。結果を検証し、継続の可能性についても探っていく。 【大】 2. 2020年度実施できなかった英語運用能力評価協会のテストでクラス分けを行う。実施結果を検証し、さらに次年度の実施に向けて準備をする。ほかの外国語についても適正な授業運営が叶うよう検討していく。 【共】 3. 継続課題として、本協議会が扱うべき範囲と事柄を明確にする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。 【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。 【共】 5. 2020年度は「文化学園大学・教職研究会」を初めてオンラインで実施したが、この形式での開催にも意義があることがわかった。2021年度に向けてはさらに開催時期・形式を検討していく。 【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月17日	1. 2020年度メンバー確認 2. 委員改選について 3. 諸行事の変更について 4. オンライン授業について 5. 英語基礎力テストについて 6. 小グループ報告
2020年4月24日	1. 委員選出 2. 英語クラス分けについて 3. 時間割で科目がバッティングしている件について 4. 日本語特別演習について 会議終了後、非常勤講師も参加して「オンライン授業のためのレクチャー」を開催
2020年6月16日	1. 新メンバー紹介 2. 委員会報告・審議 授業日程について、行事日程変更について 3. 小グループ報告 オンライン授業について、科目のバッティングについて、外国語のクラス編成について 4. 前期授業運営について
2020年7月14日	1. 委員会報告 授業料減免について、奨学金について、授業改善アンケートについて 2. 小グループ報告 3. オープンキャンパスについて 4. オンライン授業について 5. 情報 IRWG「オンライン授業の方法」に関する学生アンケートについて
2020年9月1日	1. 委員会報告 オープンキャンパスについて、就職状況について 2. 小グループ報告 3. 後期授業運営について
2020年9月15日	学部共通科目協議会オンライン授業情報交換会 後期授業に向けて、協議会メンバーと総合教養科目・外国語科目非常勤講師の情報交換を行った。
2020年10月6日	1. 委員会報告 2021年度授業日程表案について、喫煙所について、オンライン授業への対応について、オープンキャンパスについて 2. 小グループ報告 土曜日の時間割について、第8回教職研究会について、クラス分けテストについて
2020年11月10日	1. 委員会報告 2021年度授業日程について、学内Wi-Fi環境について、オープンキャンパスについて 2. 小グループ報告
2020年12月8日	1. 委員会報告 2021年度授業日程について、禁煙啓発活動について、進学相談会について 2. 小グループ報告 2021年度授業形態について、土曜日の時間割について
2021年1月12日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 時限措置科目について、キャリア形成教育科目について、第8回文化学園大学・教職研究会について、外部業者による英語のオンラインテストについて
2021年2月9日	1. 委員会報告 2021年度履修登録について、健康診断について、進路調査について 2. 小グループ報告 時限措置科目について、土曜日の時間割について、外部業者による英語のオンラインテストについて
2021年3月11日	1. 委員会報告 2021年度履修登録について、オンライン授業実施時の問題点について、敷地内全面禁煙について、2021年度オープンキャンパス日程について、オンライン企業セミナーについて、インターンシップについて、シラバスチェックについて 2. 小グループ報告 タイムシフト科目について、英語クラス分けテストについて

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生数増加に対応した更なる教育環境の整備を図る。 2. 2019年度入学生からの国際文化・観光学科の入学定員増加に対応するべく教員の補充をする。 3. 現行のカリキュラムの更なる見直し検討を図る。 4. 休退学者の情報収集・分析を継続して行う。研究室で情報を共有し早期に対応し、退学者の減少を図る。 5. 各学科の特性を生かし、より効果的なLPシステムを構築する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率25%を目指す。就職内定率は90%を維持する。 7. 留学生へのサポート体制を構築する。日本語指導、大学生活全般にわたるサポート等、きめ細かな指導などをさらに行う。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際ファッション文化学科は実習室を1つ増設できたが、まだ十分とは言えない。国際文化・観光学科は、副担任の人数を増やすなどして学生数増加に対応した。 2. 国際文化・観光学科は、観光分野の教員の補充に関して適任者が見つからず補充できなかった。 3. 国際ファッション文化学科は、一部学科選択科目のカリキュラム改定を行った。 4. 休退学者の情報収集・分析を継続して行っており、研究室で情報を共有して早期に対応し、学生への面談や保護者への連絡など対応したことで、退学者は前年度より減少した。 5. 国際ファッション文化学科は、目標管理シートを必修の実習科目で継続的に行った。国際文化・観光学科と応用健康心理学科ではほぼオンライン授業であったため、Google ClassroomをLPとして活用する方法を検討した。 6. 学部全体のインターンシップへの参加は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響のため実施されなかった。 7. 授業以外の留学生への日本語ケアは、担任・副担任を中心に行った。また必要があるときには学生相談室の協力も得ることができた。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度から国際文化・観光学科の定員数が10人増え60人に、国際ファッション文化学科は20人増え140人となるため、教育環境などの整備を図る。 2. 定員数増加に備えて、学部の特徴の明確化を図る。 3. 新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況によっては再びオンライン授業が中心となることが想定されるため、授業に関して更なる工夫を検討する。 4. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率25%を目指す。就職内定率は90%を維持する。 5. チューター活動を含む留学生へのサポート体制を工夫する。日本語指導、大学生活全般にわたるサポート等、きめ細かな指導などをさらに行う。 【大】

■検討組織名：国際化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年5月26日	1. オンライン授業について 2. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大注意喚起
2020年6月17日	1. 常置委員会交代 2. 文化祭実行委員会副委員長選出 3. サマーオープンカレッジ 4. 後期学費納入期日変更 5. 卒業研究題目締め切り日変更 6. 卒業式、卒業記念パーティー中止 7. オープンキャンパスや入試関係の変更点について
2020年7月14日	1. 国際ファッション文化学科のカリキュラム改定(案)について 2. 学内研究発表会について 3. オンライン授業アンケート 4. 「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」 5. 学生への新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する注意喚起のお願い
2020年9月14日	1. 国際ファッション文化学科カリキュラム改定審議 2. 学内研究発表会 3. 文化祭について 4. 補講期間の補講 5. 後期オンライン授業留意事項 6. 2020年度卒業式 7. 卒業研究提出 8. 2021年度の「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」
2020年10月31日	1. オンライン授業 2. 学内研究発表会 3. 「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」 4. A0入試1期(総合型選抜)の結果 5. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策
2020年12月29日	1. A0入試2期(総合型選抜)及び編入学入試の結果 2. 2021年度「キャリアデザイン(導入編)ーフレッシュマンキャンパー」日程 3. 国際ファッション文化学科3年生のファッションショー関連 4. 3月の進学相談会
2021年2月18日	1. 卒業研究提出状況 2. 卒業研究発表会 3. 2021年度入試状況 4. 今後の入試 5. 2021年度入学式 6. 実習室などの管理に関して
2021年3月24日	1. 入学予定者数 2. 卒業式 3. 2021年度授業体制 4. FIT, AUBへの留学 5. その他

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員による学生の学修成果の点検と評価から得られた結果をもとに、カリキュラムの充実を図る。 2. 学生のLPを継続して取組み、PDCAサイクルに則った学生の意識の涵養をはかるとともに、教員によるTPを作成し、教員の教育活動の改善に取り組む。 3. 各クラスの担任・副担任及び、学科会議を通して学生の学修全般における情報を共有し、学修意欲の向上、就職支援につなげる。 4. 学修成果を広く学外へ向けて発信し、評価を得る。学生のボランティア精神を育成するために製作実習で学んだ技術を生かし、社会貢献活動として文化祭におけるバザーや学外のイベント等への参加を継続的に推進していく。 【短】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の提出課題とレポート等について教員による学修成果の点検と評価から得られた結果をもとに、カリキュラムの修正を行った。修正後のカリキュラムをもとに学生が個々にキャリアプランを掲げ、ファッション分野3領域から横断的に科目を履修できる体制を維持し、就職等を見据えた実学的教育を継続して推進することができた。 2. LPをキャリア形成教育科目の4科目に加えて、実習系科目にも拡大して実施した。キャリア形成教育科目では、ルーブリックを示し意識の変容をレポートやリアクションペーパーを通して可視化し、自己評価と教員評価を評価得点のチャートにしたことにより、学びの過程を省察することができ、主体的な学びからキャリアデザインの実践教育の充実を図ることができた。実習系の科目では、LP用のシートを学生に配付し、課題製作の各工程の項目ごとに、学ぶ目的、実習の計画、到達目標を記入させることで実習内容について意識させる。各項目の実習終了後に計画状況、目標の達成度について振り返り、省察を行うことと教員からの評価を受けて次の工程の実習に入ることで課題製作に取り組む姿勢を向上させることができた。教員は、学生のルーブリックやLP用のシートの評価とともに自己のTPの振り返りや、全学FD委員会で実施した「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」等の結果をもとに指導力の向上と教育活動の改善に取り組んだ。 3. 各クラスの担任・副担任が短大の2年間、キャリア支援担当教員として学生に密接に関わっている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、学外での研修等は全て中止となった。1年生の「キャリアデザイン導入編ーフレッシュマンキャンパーー」は、学内で個人面談や学生生活についてのグループディスカッションなどの内容を加えて実施し、「キャリアデザイン実践編Ⅰ」では、キャリアデザイン教育の内容を充実させ進路相談や就職支援を行った。2年生の「キャリアデザイン実践編Ⅱ」「キャリアデザイン展開編」も1年生と同様に学外の研修を中止し、学内で外部講師による特別講義の受講や卒業生の講話など身近なロールモデルを提示したことでキャリアプランや就職に対する意識の向上を図ることができた。 4. 2020年度は、渋谷区文化プログラム大学連携企画が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初の参加予定から変更になり、パネル展示と昨年のショーの動画配信となったが、ネットを通しての配信となったことで多くの方にご覧いただけた。様々なイベントが中止になる中で「NPO法人こども環境活動支援会」の「Baton Bag Project」には継続して参加することができ、製作実習で習得した技術を生かし、2年生全員で取り組むことができた。参加した学生は、バックの装飾についての話し合いと製作活動を通してコミュニケーション能力の向上とボランティア精神の育成を図ることができた。 【短】
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員による学生の学修成果の点検と評価から得られた結果をもとに、カリキュラムの充実を図る。 2. 学生のLPを継続して取組み、PDCAサイクルに則った学生の意識の涵養をはかるとともに、教員によるTPを作成し、教員の教育活動の改善に取り組む。 3. クラスの担任・副担任及び、学科会議を通して学生の学修全般における情報を共有し、学修意欲の向上、就職支援につなげる。 4. 学生のボランティア精神を育成するために製作実習で学んだ技術を生かし、社会貢献活動として文化祭におけるバザーや学外のイベント等への参加を推進していく。 5. 短期大学部が所有している標本や資料の保存について検討し、データ化を進める。 【短】

■検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月6日	1. 2020年度第2ブロック・短大部ファッション学科研究室役割一覧表（案）について審議 2. 授業・行事について報告 3. 委員会・係り報告
2020年5月7日	1. 対面式授業の日程変更時の対応について審議 2. オンライン授業準備について報告 3. クラス関係について 4. 委員会・係り報告
2020年6月9日	1. 授業関係について報告 2. 委員会・係り報告
2020年7月14日	1. 短期大学部ファッション学科2年生「総合演習」卒業展示開催について審議 2. 新型コロナウイルス感染症感染への心配のため不登校の学生への対応について審議 3. 授業関係について報告 4. 委員会・係り報告
2020年8月20日	1. オンライン文化祭Web展示内容（案）について審議 2. オンライン文化祭Web展示準備・実施の中心メンバーについて審議 3. 授業関係について報告 4. 委員会・係り報告
2020年9月23日	1. 2021年度授業追加開講について審議 2. A0入試1期（総合型選抜）面接教室借用依頼について審議 3. 授業・行事について報告 4. 学生の状況把握（2020年度前期）
2020年10月15日	1. 授業関係について報告 2. 委員会・係り報告
2020年11月12日	1. 新コラボレーション科目（案）について審議 2. 授業関係について報告 3. 委員会・係り報告
2020年12月17日	1. 2021年度コラボレーション科目について審議 2. 短期大学部の資料保存（PDF化）について審議 3. 授業関係について報告 4. 委員会・係り報告
2021年1月21日	1. 短期大学部ファッション学科2年生「総合演習」卒業展示開催について審議 2. 授業関係について報告 3. 委員会・係り報告
2021年2月18日	1. 授業関係について報告 2. 委員会・係り報告
2021年3月10日	1. 授業関係について報告 2. 委員会・係り報告

審 議 機 関

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特定課題研究（論文及び作品制作）による修士学位取得、社会人大学院生の受け入れ体制の整備、外部の研究機関を活用した実践的教育の導入を検討し、時代のニーズに適合した大学院教育・研究を推進する。 2. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究の充実のため、服装学部と連携して博士学位を取得できる若手教員の育成体制づくりを継続検討する。 3. 大学院進学希望の学部学生が学部在学中に大学院の授業を受けられる条件の整備とともに、大学院共通科目に心理学分野の科目を新設、及び被服環境学における心理学分野の研究を含めることにより、博士前期から後期課程までの充実と学内生の増加を図る。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策としてオンライン授業を導入した。オンラインを活用した授業及び研究指導による利点、問題点を把握したところ、様々な試行錯誤やアイデアを展開して教育効果を上げていたことがわかった。これらの知見を得たことで、オンライン授業の利点である場所・時間の制約が少ないことを最大限に生かした、特定課題研究、社会人大学院生の受け入れ、外部機関を活用した実践的教育を実施する構想がつかめた。 2. 博士学位が取得できる若手教員の育成体制づくりについて、他女子大学において教員が所属する大学の大学院に入学して学位取得できる例を把握した。本学での導入に向けて課題を整理し、継続検討する。また、大学院における若手教員の確保については、担当教員を被服学専攻で3人、生活環境学専攻で2人を2021年度より新たに加えることができた。 3. 心理学分野の科目を大学院共通科目に新設し、博士前期課程におけるファッション心理の充実ができた。ただし、博士後期課程における心理学分野の充実、及び大学院進学希望の学部学生が学部在学中に大学院の授業を受けられる条件の整備については進捗できなかった。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を図りつつ、大学院教育として対面授業とオンライン授業の長所を組み合わせた新たな教育体制を構築し、IT活用とオンラインを媒介した特定課題研究、社会人大学院生の受け入れ、外部機関を活用した実践的教育を具体化する。 2. 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による留学生の減少に対処するため、大学院進学希望の学部学生が学部在学中に大学院の授業を受けられる条件の整備を進め、学内生の大学院進学を増加を図る。 3. 大学院における若手教員の確保を進めるため、本学教員が本学大学の大学院で学位取得できる仕組みの導入に向けて課題を整理し、継続検討する。 【大】

■検討組織名： 国際文化研究科委員会

報告者：中沢 志保

提出日：2021年3月15日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育面においては、国際文化専修・健康心理学専修のカリキュラムに更なる検討を加え、学部学生の進学先として魅力あるイメージを明確に打ち出す。同時に、本学における異なる分野の学部・学科や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置いた教育・指導体制の充実を図る。 2. 設置科目に応じた教員の補充を、継続して検討する。 3. 研究面においては、国際文化研究科の担当教員が、論文発表、学会報告・著書の発行などの形で研究成果を発表するよう勧めていく。 4. 大学院生に対しては、修士課程修了後の進路についての指導を強化する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度においては、健康心理学専修のカリキュラムを全面的に見直すことに力点を置いた。現代文化学部応用健康心理学科の募集停止に伴い、2022年度以降は本学における異なる分野の学部・学科や他大学などからの進学者を募る必要があるため、学部で心理学を学んでいない学生も十分に学ぶことのできる科目群を設置した。2022年度から適用されるカリキュラム改定案は、2021年2月の大学院研究科委員会で承認された。 2. 担当者の退職により、2019年度から休講科目となっていた国際文化専修の「中国文化特論」の担当者を検討し、2020年10月の大学院研究科委員会において承認された。 3. 国際文化研究科の担当教員が、それぞれの分野で研究を進め、成果を発表した。それらの成果は、関連する学会や学内研究発表会などでの報告等で明示された。 4. 2020年度の修了生である台湾からの留学生は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への配慮から、早期に帰国したが、自身の研究を生かせる就職先を母国において模索中である。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化専修のカリキュラムに更なる検討を加える。具体的には、比較文化研究の分野において、日本史及びその関連分野の強化を図る。また、本学における異なる分野の学部・学科や他大学からの進学者及び留学生の受け入れを念頭に置いた教育・指導体制の更なる充実を図る。 2. 国際文化専修の設置科目の見直しを検討し、削除する科目と新たに設置する科目を明確にする。 3. 国際文化研究科の担当教員が、論文発表・学会報告・著書の発行などの形で、研究成果を出していきよう勧めていく。 4. 修士課程修了後の大学院生の進路についての指導を強化する。 【大】

■検討組織名：生活環境学研究科委員会・国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月10日	1. 2020年度大学院研究科委員会構成員 2. カリキュラム変更 3. 学生異動について 以上3項目を審議し、承認。4. ENSADとのダブルディグリー協定に基づく派遣学生 5. 2020年度科学研究費助成金交付内定 6. 根岸愛子特別奨学金について報告。
2020年5月19日	1. 2020年度ティーチングアシスタント採用申請書 2. 2020年度大学院特別講義の授業日程 3. ENSADとのダブルディグリー協定に基づく学生の受け入れ 以上3項目を審議し、承認。4. その他(2020年度大学院セミナー オンライン授業に関する意見交換について報告)
2020年6月23日	1. 2020年度修了年次生の指導教員 2. 2019年度大学院科目等履修生の単位認定 3. 2020年度大学院に関する日程変更 4. 大学院セミナーの中止 5. 武漢紡織大学からのダブルディグリー志願者面接時期 以上5項目を審議し、承認。6. その他(文化祭展示等について報告) 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件の受理について審議し、保留。
2020年7月21日	1. 「被服学特別研究」(修士論文)の7月提出方法 2. 論文審査教員 3. Ensadダブルディグリープログラム論文審査 4. 大学院入試の日程及び実施方法、出題と採点者 以上4項目を審議し、承認。5. 研究科委員会のオンライン会議について意見集約し、報告。 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文の受理及び公聴会、審査教員について審議し、承認。
2020年9月2日	1. 2020年度生活環境学研究科修了判定 2. 修士論文の概要書式及び説明会日程を確認 3. 研究倫理教育の実施日時を報告。 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件の受理を審議し、不受理。2. 博士論文の審査フローを審議し、承認。
2020年10月20日	1. 2020年度生活環境学研究科修了判定(保留分) 2. 学生異動 3. 文化学園大学学位規程に関する申合わせ事項の改定 4. 2021年度担当教員変更 5. 2020年度修士論文の提出方法における特例措置 以上4項目を審議し、承認。6. その他(文化祭展示準備状況について報告、修士論文説明会資料について最終確認)
2020年11月17日	1. 生活環境学研究科被服学専攻グローバルファッション専修の指導教員 2. 2021年度カリキュラム変更及び担当教員の変更、以上2項目を審議し、承認。3. 2021年度休講科目の確認と対応の依頼 4. その他(2021年度科学研究費補助金の申請状況等について報告)
2020年12月1日	1. 指導教員の追加 2. 2021年度担当教員の変更、以上2項目を審議し、承認。3. 2021年度シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー 4. 2020年・2021年度年間行事担当者 5. 修士論文発表会の形式 以上3項目を協議し、決定。6. その他(修了年次生の研究概要書の提出状況等について報告)
2021年2月4日	1. 修士論文の審査教員 2. 2021年度担当教員及び指導教員の変更 3. カリキュラム変更以上3項目を審議し、承認。4. その他(修士論文抄録提出及び発表会、2021年度大学院研究科委員会日程(案)、大学院特別講義A/B、シラバス執筆等について報告) 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件について審議し、受理。2. 審査教員及び公聴会・口頭試問日程 3. 学生異動、以上2項目を審議し、承認。
2021年2月24日	1. 2020年度修士論文・修了作品最終審査及び修了判定 2. 2021年度特任教授 3. 学則変更 4. 入試科目変更 5. 学生異動 以上4項目を審議し、承認。6. その他(修士論文発表会、大学院特別講義A/B、オンライン授業における課題等について報告)
2021年3月9日	【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件の最終審査及び修了判定を審議し、1人に学位授与を承認。

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2021年4月1日

開催年月日		会議等の開催記録
2020年4月1日	審議事項 報告事項	1. 図書館委員会 2. 学生異動について 3. 研究生入学許可について 1. 2020年度新採用教員、教員人事、研究室、教室の変更等について 2. 学生異動について 3. 2020年度の行事等変更について 4. 2021度「入試日程」について 5. 2021年度募集用の入学案内書等について 6. 2020年度 新入生数について 7. 2020年度事業計画について 8. 3つのポリシーについて 9. クラス担任・副担任について
2020年5月12日	審議事項 報告事項	1. 教員異動 2. 文化・語学研修専門委員会 3. 教員の海外研修について 4. 学生異動について 5. 特別研究生・科目等履修生について 1. 各委員会報告 2. 学生異動について
2020年6月16日	審議事項 報告事項	1. 教務委員会、国際交流委員会 2. 学生異動について 3. 研究生入学許可・特別留学生入学延期について 1. 各委員会報告 2. 学生異動について
2020年7月14日	審議事項 報告事項	1. 教務委員会、教職課程専門委員会 2. 学生異動について 3. 研究生入学許可について 1. 各委員会報告 2. 2021年度入試について 3. 教員の夏季休暇等について 4. 2020年度 教員の国内外研修申請について 5. 学生異動について
2020年9月1日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 新型コロナウイルス感染症の影響による休学者の在籍料について 3. 研究生入学許可・入学取消しについて 1. 各委員会報告 2. 2021年度入試関係について 3. 学生異動について
2020年10月6日	審議事項 報告事項	8. 教務委員会 2. 学生異動について 3. 2020年9月卒業について 4. 特別留学生入学再延期について 5. 公欠審議について 1. 各委員会報告 2. 2021年度入試関係について 3. 2021年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 2021年度任期制助手の採用について 5. 2021年度副手の採用申請について 6. 学生異動について
2020年11月10日	審議事項 報告事項	1. 教務委員会 2. 学生異動について 3. 公欠審議について 1. 各委員会報告 2. 2021年度入試について 3. 学生異動について
2020年12月8日	審議事項 報告事項	1. 教職課程専門委員会 2. 学生異動について 3. 公欠審議について 1. 各委員会報告 2. 2021年度入試関係について 3. 学生異動について
2021年1月12日	審議事項 報告事項	1. 教務委員会 2. 学生異動について 1. 各委員会報告 2. 新型コロナウイルス感染症に関することについて 3. 2021年度入試関係について 4. 学生異動について
2021年2月9日	審議事項 報告事項	1. 教務委員会、図書館委員会 2. 教員異動について 3. 学生懲戒について 4. 研究生入学許可について 1. 教員異動について [正教授会(第8条教授会)報告] 2. 各委員会報告 3. 2021年度入試関係について 4. 学生異動について
2021年3月11日	審議事項 報告事項	1. 特任教員について 2. 教務委員会 3. 学生異動について 4. 研究生入学許可について 5. 学則変更について 6. 2020年度卒業判定について 7. 2020年度資格判定について 1. 各委員会報告 2. 2021年度入試関係について 3. 2021年度入学式・入学歓迎式の開催について 4. 学生異動について

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 障害学生支援委員会規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部 障害学生修学支援規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会からの寄付による新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した世帯の学生に対する授業料減免支援規程（案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部新型コロナウイルス感染症の直接的・間接的な影響で、家計が急変した世帯の学生に対する授業料減免支援規程（案）、公開講座規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部パイアウトに関する規程（案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部パイアウトに関する規程細則（案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程（改定案）、文化学園大学入学者選抜に関する規程（改定案）、文化学園大学入学者選考規程（改定案）、文化学園大学特待生制度（一般入試A日程〔一般選抜〕又は共通テスト利用入試（1期）〔一般選抜〕）規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度（附属高等学校推薦入試〔学校推薦型選抜〕）規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度（外国人留学生入試）規程（改定案）、文化学園大学特待生制度（AO入試1期〔総合型選抜〕）規程（案）、2021年度文化学園大学学則（改定案）以上について審議・承認後、教授会に提案した。審議においては、他の規程や学則との整合性を図るとともに、事前回覧で寄せられた意見等を検討、必要に応じて関連部署との間で確認・修正作業を行った。 2. 2021年度授業日程について、延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の日程、授業開始に伴うGoogle Classroom参加期間日程、AO入試1期〔総合型選抜〕・推薦入試〔学校推薦型選抜〕日程変更による日程、補講日の日数等を考慮しながら審議・決定した。 3. (1)服装学部ファッションクリエイション学科、同ファッション社会学科、造形学部デザイン・造形学科、国際文化学部国際ファッション文化学科のカリキュラム改定案について審議し承認後、教授会に提案した。審議の中では、文言の確認・修正等を行った。 (2)2021年度後期追加登録については、新型コロナウイルス感染症の状況が改善され受講人数に支障がないと判断された場合2021年度に限り、選択科目の追加登録を可能とした。 2022年度以降については、引き続き検討していく。 (3)オンライン授業におけるオンデマンド型の単位履修に関する細則の運用についての確認及び提案を受け、検討した結果、教員の裁量を尊重することとし、初回の授業において履修者に対し明確に説明すべきであることを確認した。 4. コラボレーション科目の検討については、2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、通常どおりの授業開講・運営が困難だったため、2021年度に持ち越し検討することとした。 5. 100分授業の開始に伴い、運営に焦点を絞り、各学科及び学部共通科目協議会から意見を募り、今後の検討材料の一つとした。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業体制の諸問題に関する検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年5月26日	1. 新三役(委員長、副委員長、書記)の決定 2. 委員会日程等の確認 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 障害学生支援委員会規程(改定案)の審議 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 障害学生修学支援規程(改定案)の審議 (3～4 2020年6月16日教授会承認)
2020年7月7日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 紫友会からの寄付による新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した世帯の学生に対する授業料減免支援規程(案)の審議 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 新型コロナウイルス感染症の直接的・間接的な影響で、家計が急変した世帯の学生に対する授業料減免支援規程(案)の審議 (1～2 2020年7月14日教授会承認)
2020年9月8日	1. 服装学部ファッションクリエイション学科・ファッション社会学科カリキュラム改定(案)の審議 2. 造形学部デザイン・造形学科カリキュラム改定(案)の審議 3. 国際文化学部国際ファッション文化学科カリキュラム改定(案)の審議 (1～3 2020年10月6日教授会承認)
2020年10月27日	1. 公開講座規程(改定案)の審議 2. 2021年度授業日程(案)の検討 3. 2021年度オンライン授業の検討 (1 2020年11月10日教授会承認)
2020年11月24日	1. 2021年度授業日程(案)の検討 2. 2021年度オンライン授業の検討
2020年12月22日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 バイアウトに関する規程(案)の審議 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 バイアウトに関する規程細則(案)の審議 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程(改定案)の審議 4. 2021年度授業日程(案)の検討 5. 2021年度履修登録の検討 (3 2020年3月11日教授会承認)
2021年1月19日	1. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 2. 2020年度検討課題についての検討
2021年2月16日	1. 文化学園大学入学者選抜に関する規程(改定案) 2. 文化学園大学入学者選考規程(改定案) 3. 文化学園大学特待生制度(一般入試A日程〔一般選抜〕又は共通テスト利用入試(1期)〔一般選抜〕)規程(改定案) 4. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度(附属高等学校推薦入試〔学校推薦型選抜〕)規程(改定案) 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度(外国人留学生入試)規程(改定案) 6. 文化学園大学特待生制度(A0入試1期〔総合型選抜〕)規程(案) 7. 2021年度文化学園大学学則(改定案) 8. 2021年度履修スケジュールについて 9. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 10. 自己点検・評価報告書(教務委員会・案)の確認 (1～7 2021年3月11日教授会承認)
2021年3月5日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 バイアウトに関する規程(案)の審議 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 バイアウトに関する規程細則(案)の審議 3. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 4. 2020年度自己点検・評価報告書(教務委員会・案)について (1～2 2021年3月11日教授会承認)

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 新型コロナウイルス感染症の拡大が予想されるため、緊急に日本人学生を含む留学生の健康管理を支援する体制を検討する。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生生活支援室の活用をさらに広め、学生の心の問題、留学生へのサポート、発達障害学生の問題を早期発見し、対策を進める。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 「受動喫煙ゼロ」をめざし、継続して喫煙所の整備と学生への啓発活動を実施する。 4. 新たな給付型奨学金の施行を継続して実態調査し、学生に対する経済支援について検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言のため、授業の開講は5月となり、通常のオリエンテーションでの健康診断が中止となった。新入生の健康診断は8割弱の受診ができたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の様子を見つつ在学生在に受診を呼びかけたものの、3割程度の受診率で、新型コロナウイルス感染症以外の感染症への調査や健康管理はほとんどできなかった。学生がオンライン授業のために登校する機会が少なかったといった事情もあったため、評価として委員会の課題への取組みに関しては、難しい状況であった。 2. 学生生活支援室から全学生に定期的にお知らせが配信され、学生の問題に対してカウンセラー、大学職員、担任・副担任の連携を図り、保護者も交えて問題解決を試みた。支援室が拡充され、年々支援が向上し、その対策は高く評価する。 3. 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言のため、4月から1年間登校制限を受け、学内の学生数がかかなり少なかった。学生の喫煙所の使用もほぼなく、巡回活動も学生課スタッフのみで行われた。また、自宅待機の学生に対する禁煙啓発活動もその方法と効果が見込まれないため実施しなかった。評価として、登校が制限されている学生の学内での受動喫煙防止、禁煙啓発活動に関しての委員会の取組みは、難しい状況であった。 4. 様々な政府・大学の給付型奨学金が実施されているが、それぞれに条件があるため合致しない学生に給付はできない。しかし、貸与の奨学金に申し込むことで支援は補われていると考える。学生課から奨学金のお知らせも頻繁に行われ、学生への経済的支援も手厚く行うことができた。新型コロナウイルス感染症感染拡大の中、困窮学生への経済支援はかなり充実していたと評価する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援の在り方についての検討 在学生の健康管理体制を徹底する。新型コロナウイルス感染症の収束を待ち、安全に登校できる時期を見ながら健康診断を実施し、全学生の健康状態を把握する。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 特に問題になりつつある自宅待機の留学生の孤独感や、発達障害学生の問題を早期発見し、対策を進める。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 学内全面禁煙を受け、新型コロナウイルス感染症の収束を見つつ、学内の巡回、禁煙啓発活動の企画・実施をする。 4. 学生への経済支援 様々な奨学金の告知を頻繁に行い、支援を必要とする学生に丁寧に指導する。新型コロナウイルス感染症感染拡大による経済事情の悪化で困窮する学生の支援に努める。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年7月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金の審査について 2. 喫煙所再開について 3. 現在進行中の奨学金について 4. 文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者について 5. コロナ禍における各種支援策とアルバイトの規制について
2020年9月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喫煙所の再開についてと禁煙啓発活動の提案 2. 「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」の推薦について 3. 外国人留学生の日本への入国緩和について 4. 学生生活支援室からの報告
2020年10月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンライン授業と対面授業再開における問題点 2. 対面授業への移行に伴う施設の問題について 3. 学内無線 LAN 設備について 4. 禁煙啓発活動について 5. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度後期募集について 6. 学生生活支援室からの報告
2020年11月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程の改定について 2. 禁煙啓発活動について 3. 学園本部総務部総務課作成の「受動喫煙ゼロキャンパス宣言」ポスターについて 4. 対面授業の増加によるエレベーター混雑の問題について 5. 学内無線 LAN 設備強化教室について 6. 学生生活支援室からの報告
2021年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の健康管理について 2. 学生生活支援室からの報告
2021年2月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合学生生活委員会からの協力依頼について <ol style="list-style-type: none"> (1) 喫煙所について (2) 新型コロナウイルス感染症への対策について (3) 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別の防止について 2. Wi-Fi 設置教室の拡充について 3. 2020 年度自己点検・評価報告書について 4. 学生生活支援室からの報告

■検討組織名：入試対策委員会

報告者：高橋 正樹

提出日：2021年3月30日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2021年度オープンキャンパスのあり方の検討 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している方法でのオープンキャンパスは行わず、オンラインを併用したオープンキャンパスを実施した。具体的には、2020年度に受験を予定している受験生を対象とした、予約制によるWeb型6回と来場型4回のオープンキャンパスを実施した。Web型では、受験生がオンラインにて教職員・在学生と個別相談等が行えるプログラムを実施した。来場型では、受験生のためのキャンパス見学ツアーを少人数グループで実施し、教職員・在学生の個別相談はオンラインで行う等、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めながら行った。結果的に、Web型と来場型を合計して663人の受験生が参加した。さらに、2020年度は大学紹介及び学科紹介の動画や、AO入試の説明の動画を大学ホームページ上で公開する等、新しい試みを行った。これらは概ね好評であった。例年実施しているオープンキャンパスでの「授業公開」及びサマーオープンカレッジは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。12月に行っている進学相談会については、毎年この時期に実施している卒業イベントがオンライン配信になったこともあり、新高校3年生を対象とした進学相談会として3月の実施へと変更した。予約制・来場型で実施され予約枠はすべて埋まり新高校3年生が多数参加した。結果、今回の取組みはサマーオープンカレッジや「授業公開」に関して課題を残しつつも成功と言える。 2. 2012年度より全学的・組織的に実施しており、2020年度も教員1人あたり1校以上の訪問及び職員による訪問を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。結果、どのように実施するかを含め検討の余地が見られた。 3. 入学後の教育内容に関連する入学事前教育プログラムを実施している。このプログラムに対する申し込み状況は、ほぼ100%に近く良好である。殆どの学科においてプログラムの開始時と終了時を比較すると基礎学力の向上等がみられた。結果、今回の取組みは成功と言える。 4. 2020年度オープンキャンパスの実施内容を踏まえ、入学志願者の増加へつなげる工夫について検討を行った。結果、2021年度も当面の間、予約制によるWeb型と来場型を併用して開催することを決定した。全7回(4月～9月)を予定しており、2020年度は高校1・2年生へのアプローチが少なかったことに鑑み、その対処方法としてWeb型では1・2年生も対象とすること、1・2年生専用のオープンキャンパスの日を設けることを決定した。また、参加者100人規模でのオンラインによるライブ型オープンキャンパスも、テストケースとして実施する予定である。2020年度に開催できなかったサマーオープンカレッジは、2021年度は新型コロナウイルス感染症感染予防対策をとりながら実施する予定である。具体的には対面型とオンライン型の併用で行い、対面型は高校3年生限定とし、講座数を減らすなど参加者が密にならないように実施する。またオンライン型は全学年対象に実施する。結果、今後に向けてよりよい検討が行えたと言える。 【共】
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2022年度オープンキャンパスのあり方の検討 【共】

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年7月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度入学事前教育プログラムについて（実施内容の検討） 2. オープンキャンパスについて（8月・9月の実施方法、新型コロナウイルス感染症防止対策等について説明） 3. 2021年度母校訪問について（報告）
2020年9月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（8月・9月実施回の報告） 2. オープンキャンパス追加開催について（10月追加開催の検討） 3. 2021年度入学試験について（新型コロナウイルス感染症感染防止対策等の説明）
2020年10月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスについて（9月・10月実施回の報告） 2. A0入試1期〔総合型選抜〕について（報告） 3. 12月の進学相談会開催について（検討）
2020年11月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3月進学相談会について（教員参加の有無について検討） 2. 推薦入試〔学校推薦型選抜〕、外国人留学生入試1期、A0入試2期〔総合型選抜〕について（報告） 3. 2021年度オープンキャンパスについて（開催日程と実施方法の検討） 4. 2021年度サマーオープンカレッジについて（開催の有無について検討）
2020年12月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度オープンキャンパスについて（開催日程と実施方法の検討） 2. 2021年度サマーオープンカレッジについて（開催日程と実施方法の検討） 3. 外国人留学生入試1期、A0入試2期〔総合型選抜〕等について（報告）
2021年1月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度オープンキャンパスについて（開催日程と実施内容の検討） 2. 一般入試A日程〔一般選抜〕について（報告） 3. 2021年度サマーオープンカレッジについて（実施内容の検討） 4. 2022年度入試の募集定員について（報告）
2021年2月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度オープンキャンパスについて（実施内容の検討） 2. 2021年度入学事前教育プログラムについて（申込状況の報告）
2021年3月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジについて（実施に向けての準備依頼等） 2. 3月開催の進学相談会について（実施内容について確認・連絡） 3. 2021年度入学試験について（報告）

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育徹底の継続。②3学部共通事前事後教育の日程と期間の検討。③コース単位報告会の年間スケジュールに入れやすい日程・時間の検討。④参加者減少に伴う解決策の検討。⑤参加者増加のための公開報告会実施内容の検討。 【大】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1)就職支援 ①就職活動に消極的な学生支援強化への担任・副担任との連携。②就職講座申込制継続による計画的な参加意識の向上。③スキル習得必須と思われる講座等の教員による積極的學生誘導の工夫。④情報周知方法徹底と見直し(メール、掲示、内容等)。⑤専門分野特化の企業開拓。⑥就職講座単位化要否の検討継続。⑦学内合同企業セミナー実施時期の検討。 【共】</p> <p>(2)キャリア支援 ①学部：キャリア形成教育科目との連携による企業見学や企業講師の講話取り入れの検討。短期大学部：企業見学実施の継続。②進路調査 Web 実施導入の検討。③3年以内卒業生の動向把握(紫友会との連携、Gmail アドレスの半永久的な使用)の検討。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 新型コロナウイルス感染症により休講(中止)とし、①～⑤は2021年度に持ち越した。インターンシップ希望の学生には個別での参加を促した。2021年度は対策を考え、実施に向けて検討する。 【大】</p> <p>2. (1)就職支援 ①担任・副担任との面談実施は対面の機会が減少し困難な状況が多かった。②オンラインで対応した。計画的な参加意識を持つ学生とその他の学生の格差が大きく、就職支援一課からのメール見逃しもあった。③積極的に誘導を試みたが①と同様により困難な状況があった。④メール配信と共に、Web 掲示板活用を開始した。⑤新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度に持ち越しとし将来を見据え検討する。⑥就職以外の進路学生もいるため難しい。検討を継続する。⑦2020年度はオンラインで企業研究会を2月下旬に開催した。今後も検討を続ける。 【共】</p> <p>(2)キャリア支援 ①学部：企業見学、企業講師の講話を取り入れて実施ができた学部と困難であった学部の二極化となった。今後も検討を行う。短期大学部：担任・副担任がキャリア形成教育科目を担当し強化を図った。卒業生講話の実施で現場の現状を開けた。企業見学は実施できず代替えを検討する。②Web 実施を導入した。新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している中、有効な手段となった。担任・副担任の閲覧を検討する。③2020年度での取組みは難しく検討を継続する。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①テレワーク型を含む研修への検討。②学部共通事前事後教育徹底の継続と日程・期間の検討。③コース単位報告会の日程・時間の検討。④各企業の状況に対応した柔軟な取組みの検討。⑤公開報告会のオンライン(オンデマンド)実施と1,2年生の参加推進。 【大】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1)就職支援 ①就職活動に消極的な学生支援強化に伴う担任・副担任との連携。②就職講座申込制継続による計画的な参加意識の向上。③スキル習得必須と思われる講座等の教員による積極的學生誘導。④従来の方法と就職支援一課 Web 掲示板の機能充実と利便性向上及び学生への情報周知徹底の推進。⑤専門分野特化の企業開拓。⑥就職講座単位化要否の検討継続。⑦学内合同企業セミナー実施時期の検討。上記各活動のオンライン活用の推進を図る。 【共】</p> <p>(2)キャリア支援 ①学部：キャリア形成教育科目との連携による企業見学や企業講師の講話取り入れの検討。短期大学部：企業見学実施の継続。②進路調査 Web 実施回答率向上の方法を検討。③3年以内卒業生の動向把握(紫友会連携、Gmail の半永久的使用)の検討。上記各活動のオンライン活用の推進を図る。 【共】</p>

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年7月28日	1. 各小委員会の決定について 2. 2020年度活動計画について 3. 就職状況及び学生の活動状況について 4. その他(文部科学省発表最終就職率、就職みらい研究所資料)
2020年9月29日	1. 各小委員会の活動報告について(自己点検・評価報告書検証、オンライン化、就職講座オンデマンド配信、就職支援一課共有ドライブ、進路調査カード運用方法、インターンシップ先) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(就職委員会活動計画、資料・大学関係者の新型コロナウイルス感染症の感染経路、健康診断書発行)
2020年11月17日	1. 各小委員会の活動報告について(就職支援一課 Web 掲示板、インターンシップ、造形学部デザイン・造形学科学生の就職内定率向上の取組、早期離職者動向把握仕組み作り、就職講座受講促進取組) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(就職支援一課 Web 掲示板展開、2021年度インターンシップ実施の見直し)
2020年12月15日	1. 各小委員会の活動報告について(2021年度インターンシップ実施方法、就職活動支援強化、就職支援一課 Web 掲示板・キャンパスプラン Web 就職の活用) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(文部科学省発表就職内定調査、日本経済新聞抜粋記事)
2021年1月19日	1. 各小委員会の活動報告について(2021年度インターンシップ実施、オンライン合同企業研究会実施、就職講座ネーミング、就職活動支援担任・副担任との情報共有、就職未決定者サポート、キャリアアドバイザーオンライン面談) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. 自己点検・評価報告書について 4. その他(文部科学省発表就職内定調査、本学履歴書書式、進路調査)
2021年3月2日	1. 各小委員会の活動報告について(自己点検・評価報告書作成、インターンシップへの取組、オンライン化推進及び課題改善、就職未決定学生のフォロー) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(2020年度自己点検・評価報告書、求人情報、文部科学省資料)

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、実施が懸念された教員研究作品展及び紀要について検討した。日程の変更、密を避けて動画配信等の対応を行うことで例年どおり実施することができた。</p> <p>(2) 文部科学省からの「競争的研究費における制度改善について（通知）」を受け、競争的研究費を獲得した際に、研究に専念する環境を確保するために業務の代行依頼を可能とする「バイアウト制度」について、本学でもその運用に向けて「バイアウト制度WG」を委員会内に設置し、本委員会で規程、細則案等を検討した。2021年3月11日の教授会の承認を経て2021年4月1日施行予定。</p> <p>2. (1) 紀要、教員研究作品展作品集を電子化し、「教員の研究成果」としてまとめ、3月25日よりWeb公開した。</p> <p>①2020年12月14日～25日に「第35回教員研究作品展」を行った。新型コロナウイルス感染症に対する対策として会場展示は控えWeb配信とした。出点数は26件で昨年より17件減少したことから、来場型、Web配信等作品展の開催の在り方、周知させる方法も今後の課題となった。</p> <p>②紀要第52集は、投稿数が14件（研究論文5本、研究ノート6本、作品ノート2本、文献・資料紹介1本）となり2019年度の18件から減少したが、投稿等これまでの紙媒体からメール等を活用したデータ入稿等を行い、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している中での対応としては適切であった。</p> <p>(2) 「制作・表現系統の研究の充実」と「発表の場の拡大」を目指してウィンドウ展示を催した。2020年12月14日～2021年1月14日の期間に「五人五色」というタイトルで染織研究室が担当し、帯、タペストリー、オブジェ、服など、これまでに制作した研究作品を展示した。教員の作品を一堂に見るよい機会だったとの意見が寄せられているが、2021年度より全学的にアンケートを取りフィードバックを行う予定。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討</p> <p>2. 教員の研究成果の発信に関する課題 (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 【共】</p>

■ 検討組織名：研究活動不正防止委員会

報告者：米山 雄二

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 2020年度も引き続き不正防止対策を実施する。 2. 研究活動における不正防止と研究活動の推進を調和させた研究費の使用・承認プロセスの見直し 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 不正防止対策として、研究活動不正防止への教育を以下のとおり実施した。 (1)教職員を対象にしたコンプライアンス研修会 (2)教員を対象とした研究倫理研修会 (3)大学院生を対象とした研究倫理教育 (4)科学研究費助成事業公募説明会 これらの実施により、研究活動における不正行為及び注意点について理解を深め、(1)～(3)については受講後のアンケート調査により、その理解度を確認した。</p> <p>2. 公正な研究活動の推進に関する取組みとして、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、「文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」を次のとおり改定し、学内の周知を図った。(2020年7月14日教授会報告・大学HP更新) (1)第2条の不正行為の定義に「二重投稿」及び「不適切なオーサーシップ」を追加 (2)第13条の不正行為を認定する研究公正委員会の調査委員の選定について、被告発者が異議を申し立てることができることを追加 (3)第21条の不正行為の公表内容の詳細を追加 研究費の使用・承認プロセスについては、学園本部総務部に業務改革支援室が新設されたことから、連携して引き続き見直しを図る。</p> <p>3. 関連部署から研究活動不正防止計画に基づく取組みの実施状況(研究倫理教育・研修、コンプライアンス研修、内部監査、誓約書の徴取など)の報告を受け、活動の振り返りを行った。加えて、科学研究費助成事業に携わるアルバイト従事者、業者からの誓約書についても同様に問題がないことを確認した。</p> <p>4. 文部科学省からの「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく調査の実施方針の改正について」の通知(2月9日付)を受け、2021年4月1日改定施行に向けて、次の規程を検討した。 (1)文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程 (2)研究活動不正防止対策の基本方針 (3)研究活動不正防止対策の不正防止計画 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<p>1. 2021年度も引き続き不正防止対策を実施する。 2. 公正な研究活動推進への取組みを継続 3. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく学内関連規程の改定及び適正な運用 4. 競争的研究費の運営・管理に関わる部署と連携し、研究費の使用及び承認プロセスの見直しを図る。 【共】</p>

■ 検討組織名：研究活動不正防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年7月14日 ～28日	1. 競争的研究費の使用法に関する説明会（対面・オンライン 計7回）の実施
2020年7月29日	1. コンプライアンス研修会の実施（オンライン） 対象：助手以上の教員及び競争的研究費等の運営・管理に関わる職員 (1) コンプライアンス教育の必要性 (2) 研究不正の現状及び具体的事例 不正事案の概要、研究機関・配分機関が行った措置、発生原因及び再発防止策等 研修後のアンケートで個々の理解度を確認した。
2020年6月～ 7月上旬	1. 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部研究活動の不正防止及び公正性の確保に関する規程」の改定について検討し、改定内容を教授会にて報告。（2020年7月14日教授会承認）
2020年9月9日	1. 研究倫理研修会(オンライン) 対象：助手以上の教員 (1) 研究倫理の基本的考え方、不正行為の定義の再確認 (2) 不正行為の事例 (3) 研究者の責任・研究機関の責任、違反に対する措置 (4) 人を対象とする研究について（インフォームド・コンセント、個人情報の保護） 研修後のアンケートで個々の理解度を確認した。
2020年9月29日	1. 研究倫理教育の実施（オンライン） 対象：大学院生（博士・修士） (1) 研究活動における研究倫理の必要性 (2) 不正行為の種類 (3) 「研究倫理」を身につけるには一不正行為を疑われない心がけ 実施後のアンケートで受講者個々の理解度を確認した。
2021年2月9日	1. 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく調査の実施方針の改正について」の通知を受け、関連規程の見直し及び改定案を研究協力室と検討

■ 検討組織名： 研究倫理委員会

報告者：米山 雄二

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 研究倫理啓発を継続して進めていく 2. 卒業研究及び修士研究の計画時における研究倫理のチェックシステムの構築 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止の点から、教員向けの研究倫理研修会及び大学院生向け研究倫理教育をオンライン形式にて開催。研修後に理解度をチェックするためのアンケートをWeb上で行った。また、都合により参加できなかった教員に対してはオンデマンドでの受講を勧めた。その結果、受講率は教員で100%、大学院生で80%であり、理解度もTOP 2BOXではほぼ100%であり、効果的であった。また、科学研究費助成事業等の外部競争的資金による研究申請及び使用方法の説明会でも、研究倫理に関するガイドラインを広めることに努めた。 2. 2020年度における研究倫理の審査申請は、迅速審査11件(教員7件、学生4件)を審査し、承認した。研究倫理の意識が浸透し、研究倫理審査に関する問い合わせが増加した。卒業研究及び修士論文の計画時における研究倫理のチェックシステムについては、研究倫理の意識定着も含め、セルフチェックを導入することを提案した。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<p>1. 研究倫理啓発を継続して進めていく 2. 自己の研究内容について、研究倫理をセルフチェックし、審査の必要性を研究者が判断できる仕組みを導入する 【共】</p>

開催年月日	講演会等の開催記録
2020年9月9日	<p>助手を含む全教員を対象に、研究倫理啓発のための研修会をオンライン開催した テーマ：研究倫理啓発のために(6) 講演者：国際文化研究科長 講演時間：30分</p>
2020年9月29日	<p>大学院生を対象に、研究倫理教育をオンラインで実施した テーマ：大学院で研究を始めるにあたり 講演者：生活環境学研究科長 講演時間：30分</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2021年3月4日	<p>1. 2020年度における研究倫理審査の結果及び振り返り、2. 文化ファッション研究機構が主催する研究助成に関わる研究者の研究倫理教育受講、以上2件について協議した。研究倫理のセルフチェックの導入について意見があった。</p>

■検討組織名： 公開講座実行委員会

報告者：安高 信一

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討</p> <p>2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座の広報に関する検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 特別公開講座の果たすべき役割に鑑み、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況において開催可能な方法や内容を検討し、開催実現の可能性を探った。しかし、開催方法や開催における懸念事項も多く、企画立案の段階で休止が決定した。</p> <p>企画案作成段階では、このような状況下でも参加しやすく安全な方法が検討され、本学の新しい研究領域を生かした特別公開講座が開催できないか模索した。特別公開講座開催実現の可能性を高め、かつ本学の研究の幅の広さを示す新領域を取り上げ、本学への更なる理解を深めていただきたいと考え、テーマの設定及び講演者を検討した。</p> <p>2. 2020年度の特別公開講座は、新型コロナウイルス感染症により開催が困難との理由で休止となったため広報は行わなかったが、2020年度企画案作成段階や2021年度の開催方法を検討した際、その開催の可能性を探る中でオンラインによる開催が取り上げられ、従来とは異なる形式での開催により、これまで参加経験のない新しい聴講層の参加が見込めるのではないかと提案があった。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討</p> <p>2. 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座の開催方法と広報に関する検討 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2020年6月30日	<p>1. 2020年度特別公開講座のコロナ禍における開催の可能性について協議</p> <p>2. オンライン形式での開催の場合の方法や懸念事項について協議</p> <p>3. 特別公開講座のテーマ及び講演候補者選出について依頼</p>
2020年7月22日	<p>1. 特別公開講座の講演候補者選出について意見収集及び検討、決定</p> <p>2. 公開講座規程の改定の必要性について報告</p>
2020年9月25日	<p>1. 特別公開講座の講演候補者との具体的な内容について検討したことの報告</p> <p>2. 2020年度特別公開講座開催の可能性について協議、休止の決定</p> <p>3. 公開講座規程の改定について協議、決定（2020年11月10日教授会承認）</p>
2020年12月21日	<p>1. 2020年度特別公開講座休止の教授会における承認の報告</p> <p>2. 2020年度特別公開講座休止の外部向け告知の方法と時期について協議</p>
2021年2月2日	<p>1. 2021年度特別公開講座開催方法について情報共有の依頼</p> <p>2. 2021年度特別公開講座連携企画検討のための文化学園服飾博物館企画展情報の共有</p>
2021年3月13日	<p>1. 2021年度特別公開講座開催方法等について情報共有のため委員からの情報の報告</p> <p>2. 2021年度への課題の確認</p> <p>3. 「2020年度 自己点検・評価報告書」の内容確認</p>

■検討組織名： ハラスメント防止委員会

報告者：石田 名都子

提出日：2021年3月23日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10年以上が経過した取り扱い事案の記録の破棄を実施する。</p> <p>2. 2020年度の委員会の在り方について検討する。</p> <p>3. ハラスメント相談員の存在について学生へ広める方法をさらに検討する。</p> <p>4. 教職員全体に対して、ハラスメント防止への意識啓発を図る方法を検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 本委員会の取扱事案で10年を経過した資料・書類等(2010年度の取扱事案)を「申し送り事項」に示された方針どおり破棄した。</p> <p>2. 2020年度の委員会の在り方について検討した結果、2019年度までの在り方を踏襲していくこととした。</p> <p>3. ハラスメント相談員の存在について学生へ広める方法の一つである学生配布用ハラスメントに関するリーフレットの在庫が2020年度分でなくなるため、2021年度以降の学生配布用リーフレットの増刷に向けて内容の確認を行った。</p> <p>4. 教職員全体に対して、ハラスメント防止への意識啓発を図る方法について今後も検討を継続する。</p> <p><点検評価></p> <p>(1)2020年度に課題として設定した事項は、概ね達成することができた。</p> <p>(2)ハラスメント事案は、2件の申し出があった。フローチャートに則って委員長及び委員2人の計3人で聞き取り調査を行った結果、1件目の事案は後日、本人より「取り下げる」という申し出があった。2件目の事案は、3月上旬に申し出があり現在、調査中である。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10年以上が経過した取扱事案の記録の破棄を実施する。</p> <p>2. 2021年度の委員会の在り方について検討する。</p> <p>3. 「学生生活調査」における学生アンケートの内容を精査する。</p> <p>4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかり、あわせてその方法について検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月5日	<p>リーフレット「NO Harassment!」の配布</p> <p>1. 全新生にリーフレットを配布</p> <p>2. 新任の全非常勤講師にリーフレットとともにハラスメント防止への協力要請文を送付</p>
2020年4月～5月	2009年度取扱い事案の書類廃棄
2020年7月	リーフレット「NO Harassment!」の増刷のための内容確認
2020年9月	ハラスメントの申し出があり、委員長及び委員2人の計3人がその申し出の内容について調査、確認を行った。聞き取り調査を行った結果、後日、本人より「取り下げる」旨の申し出があった。
2020年9月25日	<p>1. 2020年度ハラスメント防止委員会と相談員の構成表の確認</p> <p>2. 学生配布リーフレット「NO Harassment!」の増刷に向けての内容確認</p> <p>3. ハラスメントの訴訟が1件あったことの報告</p>
2021年2月18日	1. 2020年度ハラスメント防止委員会自己点検報告書について検討
2021年3月5日	1. 2020年度ハラスメント防止委員会自己点検報告書の確認
2021年3月	1. ハラスメントの申し出があり、規程に基づき、調査小委員会がその申し出の内容について調査、確認中である。

■検討組織名： 障害学生支援委員会

報告者：佐藤 浩信

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動 2. 文部科学省の通達を踏まえたより実効性のある障害学生支援の在り方の検討 3. 関連部署との有機的な連携 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2020年度の要支援学生に対し、継続的な支援が行われているか確認のうえ、学生の自立を目指した規程に基づく合理的配慮及び実施されている支援内容についての確認を行った。結果、2019年度の方針に基づく継続支援が行われ、概ね順調に修学し学年末を迎え、卒業を迎えた学生もいた。引き続き、規程に基づく支援を継続的に実施し、要支援学生の修学のための本質的かつ具体的な支援を充実させ、当該学生の自立及び成長を促すことに努めた支援を行っていく。</p> <p>2. 2019年度に行われた学園の組織変更に基づく全学的な学生支援への整備が図られたことから、文化学園障害学生支援委員会に本委員会から委員2人が参加し、学園全体の支援の状況及び課題点について意見交換を行い、合理的配慮実施に際する教務上の公平性の確保の重要性などについて問題提起を行った。要支援学生への個別支援については、学園学生生活支援室との連携を深めながら、実施される個別支援の現状の把握と承認、卒業後必要とされる社会的支援についての情報提供及び就職指導などが行われた。支援に対する基本的な視点については、傷病又は障害に関する確定診断の有無にかかわらず、教育的観点から合理的配慮に基づく修学上必要とされる支援を提供し、状況に応じた建設的な支援を行っていくことを確認した。なお、支援環境の充実と整備にも意識を置き、ピアヘルパー資格を有する学生による学生同士の日常的な支援活動にも対応できるよう有資格者の増員に向けた告知と支援意識の啓発を行い、長期的な支援環境の整備と意識の向上に努めた。</p> <p>3. 上質な合理的配慮に基づく学生支援を行っていくために、学生課、学生生活支援室、就職支援一課との緻密な連携を行っている。学生生活における実務的な支援については、障害学生支援コーディネーター等の実務担当者の介入により、インクルーシブ教育として様々な情報の共有を行い、支援学生が必要としている適切な支援の提供を行った。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 規程に基づく障害学生への継続的な支援活動 2. 文部科学省の通達を踏まえたより実効性のある障害学生支援の在り方の検討 3. 関連部署との有機的な連携 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2020年9月14日	1. 学生の支援申請についての可否判定（審議） 提案のとおり承認
2020年12月15日	1. 学生の支援申請についての可否判定（審議） 提案のとおり承認 2. その他（学園障害学生支援委員会参加報告）
2021年3月16日	1. 2020年度の障害学生支援状況（要支援学生）の状況について 2. その他（2021年度の委員会のあり方等）

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. カリキュラムについて (1)新カリキュラムの指定科目や時間割が、取得に不都合が生じていないかを随時確認する。 (2)指定科目が変更となる科目について、認定が得られるよう担当教員と打合せを行い進める。</p> <p>2. テキスタイルアドバイザー（以下「TA」）資格の魅力と取得の意義を認識させる。 (1)衣料管理士と社会との関わり方の重要性を理解させ、取得者減の対策を講ずる。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1)新カリキュラムが、2021年度で完成年度を迎えるため、4年間で指定科目が問題なく履修できるかを検証中である。 (2)「ファッション造形学実習BI」「アパレル縫製実習I」について、講義内容と担当教員の審査を日本衣料管理協会に依頼し、認定を得た。</p> <p>2. (1)2020年度も日本衣料管理協会主催の「TA交流プロジェクト」を利用し、「TA実習」の授業の中でTAの魅力や繊維・ファッション業界との関わりについての講義を3年生に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の状況下で実習が中止となり、授業も休講にせざるを得なかった。今後は現場の話を紹介することで、よりTAの魅力や意義を理解させることができると考えるため、継続的に「TA交流プロジェクト」を利用していきたい。またオリエンテーション時に1、2年生への資格ガイダンスが実施できなかった。資格の意味や必要性について、各委員が担当している指定科目の中で、随時TAと関連付けて解説を行うことで理解してもらうようにした。 (2)資格取得者減の対応については、現4年生は旧カリキュラムのため資格取得が難しいコースがあったこともあり定員を満たすことができなかった。現3年生から新カリキュラムとなり資格指定科目の見直しを行ったことで増加の傾向がみられる。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. カリキュラムについて (1)新カリキュラムが完成年度となり、4年間の履修システムに問題がないか見直しを行う。 (2)指定科目の教員が変更となる科目については、随時科目担当者と打合せを行い、認定が得られるように進める。</p> <p>2. TA実習について (1)実習先が減少傾向にあるため検討する。 (2)2021年度も実習は中止となることから、衣料管理士と社会との関わり方の重要性を、各委員が関係している指定科目の中で伝えていく。</p> <p>3. 継続してTA資格の魅力と取得の意義を認識させる。 (1)1・2年生にも「TA交流プロジェクト」を導入し、現場の話を紹介することで、よりTAの魅力や意義を理解してもらう。 【大】</p>

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月2日	1. 2020年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価報告書の提出について 3. 「TA実習」授業内容の確認
2020年5月20日	1. 2020年度正会員申請書について 2. TA資格取得希望の3年生について 3. TA実習について
2020年6月24日	1. TA協会年次報告書の確認
2020年9月23日	1. 2021年度TA取得の学生（2年生）への喚起計画
2021年1月26日	1. 衣料管理士資格認定証の確認
2021年2月3日	1. 2021年度4月のオリエンテーション「衣料管理士資格に関するガイダンス」について 2. 2021年度履修要項について 3. 自己点検・評価報告書について

開催年月日	学生指導等の記録
2020年12月11日	ファッションクリエイション学科3年生対象 資格取得のためのガイダンス
2020年12月2日	資格認定証交付等の手続きに関する説明会
2020年12月11日	3年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼）の説明会
2021年1月29日	衣料の使用実態調査の回収、点検

■検討組織名： 建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口 久美子

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により急遽オンライン授業となった影響で、例年4月から開講している課外授業1講座（「インテリアコーディネーター資格試験対策講座2020」）については実施困難のため開講しないこととなった。しかし、9月に開講されるコラボレーション科目4講座（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネージャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）、については、ハイブリッド形式など授業方法を工夫して実施した。これらの講座は受講者数が安定していることから、2021年度もコラボレーション講座は継続し、課外授業の「インテリアコーディネーター講座」についてもオンラインを併用して開講する予定である。 二級建築士のアカデミック講座についても、例年よりタイミングが遅れたが、ガイダンス・説明会を実施した。 2. 建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況調査について、在学生については5月に、卒業年次生については3月卒業時に実施した。調査方法はGoogleフォームを導入したが、回答率は依然として低く、実施方法については今後も検討する。また卒業生の建築士資格取得調査については、新型コロナウイルス感染症の影響により見送った。これらの調査方法及びデータの活用については、2021年度以降の検討課題とする。 3. 2021年度への継続課題とする。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月14日	<p>1. 例年オリエンテーションで配布していた資料「資格関連ガイダンス」はGoogle Classroomで配信することとした。 2. 卒業生への資格取得状況調査を例年紫友会報に同封していたが、2020年度は見送ることとした。</p>
2020年5月19日	<p>1. 資格支援対策として予定していた「インテリアコーディネーター資格試験対策講座2020」は、講師のオンライン授業対応が困難のため2020年度は開講しないこととした。</p>
2020年10月13日	<p>1. 「二級建築士アカデミック講座説明会」を11月17日に実施することとした。</p>
2020年12月15日	<p>1. 2021年度資格講座の開講方針として、コラボレーション科目として開講する4講座（「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネージャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」）については、2021年度もこれまで同様に実施することとした。また課外授業の「インテリアコーディネーター資格試験対策講座2020」については2020年度開講できなかったが、2021年度はオンラインでの実施を依頼することとした。</p>
2021年2月16日	<p>1. 卒業後の二級建築士資格取得支援の対応策について検討し、これまで紹介していた日建学院の他に、総合資格を追加することとした。</p>

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

報告者：加藤 薫

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、2021年度に向けて授業内容の大幅な刷新を行う。</p> <p>2. 海外留学 (1)引き続き、留学に関し学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。 (2)「誓約書」の書式については、さらに見直すべきところがないか改めて検討する。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関しては、国際文化・観光学科の授業(「プロジェクトセミナーⅡ」と連動させて、研修プランを刷新した。具体的には、研修内容について学生を小グループに分けて考えさせて、最終的にコンペ方式により最優秀企画を研修内容に取り入れることとなった。</p> <p>2. (1)2020年度は残念ながらコロナ禍により、留学が成立しなかった。 (2)「誓約書」の書式については2020年度も見直しを行ったが、見直すべきところは見つからず、そのまま使用することとなった。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム(国内)」に関して、刷新した企画について実施、評価を行っていく。</p> <p>2. 海外留学 (1)引き続き、留学に関し学生の意欲を喚起しつつも適切な指導と審査を行う。 (2)「誓約書」の書式については、さらに見直すべきところがないか改めて検討する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>※2020年度、コロナ禍により留学希望者がおらず、委員会も開催されなかった。</p>

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の選定 本課程は2020年度入学生より廃止されるが、2017年度法務省「日本語教育機関の告示基準」(以下、2017年度新指針)への対応は必要である。日本語学校側も新しい基準への対応が必要となるため実習受け入れの方向性について再検討しているうえ、さらに、新型コロナウイルス感染症感染拡大による海外渡航の自粛や制限などにより、教壇実習の実施には従来の本学の枠組みでは難しくなることも予想され、さまざまな検討が必要となる。 2. 他学部履修学生への対応 2019年度入学生の履修者の中に、服装学部ファッション社会学科の学生が2人いる。課程科目の時間割等は、課程設置学部である現代文化学部中心に決められるが、他の学部学生の履修が容易になるような実施可能な対応を考える必要がある。 3. 2017年度新指針への対応 2020年度課程修了生から新指針に対応したカリキュラムで学んだ学年になる。修了証などの書式において、必要に応じた変更・対応などを行う。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大により外国人入国者数が規制される状況で、日本語学校からの実習生受け入れ協力が得られなかったため、2017年度新指針の他、2017年度法務省「日本語教育機関の告示基準解釈指針」、文化庁国語課「文化庁届出受理日本語教師養成研修実施機関・団体における新型コロナウイルス感染症への対応について」(2020年8月)に鑑み、必要な条件を満たす教育実習を、同時双方向性を保った遠隔授業形式で行った。2020年度は大学の授業自体がオンライン同時双方向授業であったため、混乱なく実施できた。実習生からは対面授業と共通した非母語話者に対する教育方法を学び、また、今後の普及が見込まれるオンライン授業を体験する機会となったという最終報告書が提出された。また、授業見学は文化外国語専門学校にご協力をいただき、オンライン形式で実施した。実習生からプロ教師の授業技術のほか、オンライン時代の教室運営の方法について大きな学びを得たという報告があった。 2. 2020年度においては他学部学生の履修の問題は生じなかった。 3. 課程修了証取得証明書、課程修了証取得見込証明書において、文化庁国語課「大学・大学院における日本語教員養成課程について よくある質問」に従い、必要な改定を行った。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の選定 新型コロナウイルス感染症流行継続による留学生数の不安定な状況は続くが、引き続き教育実習受け入れ先を見つける努力が必要である。教壇実習の実施には従来の本学の枠組みでは難しくなることも予想され、さまざまな検討が必要となる。 2. 他学部履修学生への対応 課程科目の時間割等は、課程設置学部である現代文化学部中心に決められるが、他の学部学生の履修が容易になるような実施可能な対応を考える必要がある。 3. 2017年度新指針への対応 新指針に合致した履修、実習の実施方法を検討する。また、新たに取りまとめられた文化庁文化審議会国語分科会による2019年度「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」への対応のあり方も検討していく必要がある。 【大】

■ 検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年5月3日	課程履修中断学生に対する意志の確認と、委員に課程履修状況を報告。
2020年6月下旬	課程履修者名簿の確認、課程修了証取得証明書、課程修了証取得見込証明書の文言変更について、委員会メンバーで検討。
2020年11月下旬	地域日本語教育実態調査への記入を委員会メンバーで分担して実施。
2021年2月下旬～3月上旬	1. 2020年度課程修了生の修了認定の確認。 2. 自己点検・評価報告書内容についての検討。

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討 2. 教職課程辞退者数を減少させるための検討 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実 6. 教育実習履修希望学生の教育実習辞退への対応 7. 新型コロナウイルス感染症の影響による教育実習・介護等体験の検討と対応 (新規追加) 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度より教職課程各学年にてオンラインでの「教職課程ホームルーム」(以下、HR)を行った。各学年の目標や心構えなどの説明や各種連絡などを定期的に行うことで、学生と相互理解を深めるとともに、学生からの相談などに随時対応した。これらにより多様な学生への幅広い指導が展開できるよう指導体制を構築した。さらに、2021年度入学生からは「教職課程履修の手引き」を活用することで、教職課程への理解を深めながら履修できるよう準備を重ねた。2021年度以降もこれらを継続し、指導方法改善の定着化と実効化を図る必要がある。 2. 上記のHRに加え、2020年度より「教職交歓会」として(1)4年生による教職課程修了の報告、(2)2～4年生による懇談などを行った。それらを通じ、教職課程履修の意義や価値の理解促進と、教職課程履修学生としての意識醸成を働きかけることができた。2021年度以降もこれらを継続するとともに、更なる対応を進めていく必要がある。 3. 上記HRを通じた全体指導と教科教育を中心とした個別指導を両軸とし、実習生の専門性向上に取り組んだ。また本実習への教育効果向上をねらいとし、集中事前教育を教育実習直前に行った。しかしながら、期待する評価に至らなかった学生が数名いたため、更なる改善が必要と考える。 4. 2020年度は文化祭開催方法の変更に伴い、オンラインで開催した。遠方からの参加や、会員と現役学生による情報交換などにより、これまで以上に連携を推し進めることができた。 5. 新型コロナウイルス感染症の影響のなか対面による開講が叶わず、オンラインで実施した。例年より受講生が減少したが、個別のニーズに応じた講座内容で展開することができた。今後は受講者の増加に加え、合格者の輩出に向けて取り組む必要がある。 6. 2020年度は該当学生なし。 7. 2020年度当初より文部科学省や各教育委員会の動向や配信情報を把握・検討すると同時に、実習及び体験の関係機関と緊密に連携を図りながら、準備を進めた。対象学生へは随時状況を伝え理解促進を図り、不安軽減と準備進展に繋げることができた。 【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討と対応 2. 教職課程辞退者数を減少させるための検討と対応 3. 教育実習の学修成果向上に向けた指導体制及び内容の検討と対応 4. 教員採用試験対策講座の継続と充実 5. 教職演習室のより効果的な活用に向けた検討と対応 【大】

■検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年5月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会三役選出 2. 2019年度教育実習報告書 3. 2019年度自己点検・評価報告書 4. 2020年度教職課程ガイドンス 5. 2020年度教育実習 6. 2020年度介護等体験 7. 2021年度教育実習履修審査 8. 新任委員紹介
2020年7月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度教育実習 2. 2020年度介護等体験 3. 教職課程ホームルーム 4. 教員採用試験対策講座 5. 教職課程履修の手引き
2020年9月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度教育実習 2. 教職課程履修の手引き
2020年11月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程履修の手引き 2. 2020年度教育実習 3. 第8回文化学園大学・教職研究会 4. 「保育学」保育実習
2021年1月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度教育実習単位認定審査 2. 教職課程履修の手引き 3. 第8回文化学園大学・教職研究会 4. 2021年度教育実習集中事前教育 5. 2021年度介護等体験 6. 教職課程ホームルーム
2021年2月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程履修の手引き 2. 2020年度自己点検・評価報告書案 3. 2021年度教職課程ガイドンス

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：田中 直人

提出日：2021年3月24日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員課程への入口である2年生向けガイダンス(4月オリエンテーション期間)において、学芸員課程の内容を履修学生に適切に伝えることが求められる。 2. 学芸員資格を取得することの意義、博物館で働くことの魅力を、2年生向けガイダンスは勿論、以降の各授業においても、履修学生に適切に伝えることが求められる。 3. 文部科学省の学芸員課程のガイドラインにて「学芸員課程の総まとめの場」として位置づけられる「博物館実習」について、高い専門性を持つ教員、豊富な実務経験を有する学芸員の指導の下、実践的内容となるよう検討していくことが求められる。【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生向けガイダンスについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大による出校停止期間であったため、例年のような対面での説明会は行わず、全2年生に向けて課程に関する説明を記したメールを送信し、質問を受け付けた。履修手続きに関する説明は過不足なく行えたと思う。 2. 学芸員資格取得の意義、博物館で働くことの魅力について、とりわけ初年度である2年次には、「博物館概論」では、博物館の定義とその目的・機能を理解した上で、博物館を取り巻く法的枠組み、社会教育施設としての博物館のあり方、現代の博物館が抱える課題などを概観し、「博物館教育論」では、その教育活動の理念を説明しながら、博物館の持つ教育的役割の意義について具体事例から理解を深めた。学芸員として働くことの意義や魅力の一端を伝えることとなったと思われる。 3. 2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大による出校抑制期間と重なったため、教員と学生が対面して行う本授業は制約を受けた。オムニバス形式で進めるため、各回担当教員が授業内容にそれぞれに工夫をこらし授業を進めた。また文化学園服飾博物館で行う館園実習もオンラインでの実施となり例年とは異なる進め方で行われた。2021年度もこうした授業体制が継続されるため、引き続き授業効果を高めるための工夫が求められる。【大】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非常勤講師のオンライン授業の進め方について、大学が示すオンライン授業の枠組みを適切に伝え、適正な形で授業運営がなされるよう支援を行う。 2. 学芸員課程の総まとめの場と位置づけられる「博物館実習」について、オンラインを併用して行うこととなる館園実習の教育効果をどう高めてゆくか、学生を受け入れる文化学園服飾博物館のスタッフと連携しつつ、手法を確認し、課題を検討、解決していくことが求められる。【大】

■検討組織名：学芸員課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年12月21日	会議（委員） 1. 2020年度「博物館実習」の授業計画と実施状況について報告と確認 2. 2021年度「博物館実習」の進め方について 3. 2021年度の学芸員課程関連業務の進め方について 4. 文化学園服飾博物館との連携のあり方について
2021年1月27日	会議（委員） 1. 2021年度「博物館実習」の進め方について 2. 文化学園服飾博物館との連携のあり方について
2021年1月27日	会議（委員、服飾博物館学芸員） 1. 2021年度の館園実習の進め方について 2. 文化学園服飾博物館の2021年度の業務予定について 3. 実習日誌のあり方について

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、履修ガイダンスや対面授業・校外学習（図書館見学）を中止し、資料のみの配付や、オンライン授業を実施するなど、大きく変わった1年となった。</p> <p>(1)授業 新カリキュラム移行9年目の2020年度も、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。対面授業から原則オンライン授業に変更したことで様々な対応を行った。資源組織の科目に必須の『日本十進分類法』『日本目録規則』『基本件名表目表』（いずれも日本図書館協会）のPDF版を入手し、活用した。「児童サービス論」での現職図書館員による実演は休止、「図書館概論」での『私の読書体験記』は印刷物からPDF版の配付とした。一部科目でのミニツツペーパーの提出は継続し、オンライン授業ではGoogle Classroom等を活用し、提出物の回収が効率化され、学生へのフィードバックを十分に行うことができた。</p> <p>司書課程を履修しやすくするため、4年生の選択科目4科目中の2科目を金曜日に、残り2科目を集中講義の授業としたが、受講生の減少で集中講義2科目のみの開講が続いた。2020年度は4年生の受講生が多かったため、4科目を全て開講し学生の多様な関心に応えた。</p> <p>(2)履修登録 2020年度の司書課程の履修ガイダンスは中止になり、履修登録システムの課題から服装学部・造形学部の学生には資料配付の上、担当教員が履修登録を中継した。その結果、登録者は1年生39人、2年生15人、3年生3人、4年生17人、計74人で、2019年度に比べ20人増加した。司書課程の科目が卒業単位の対象として扱われることで学修意欲が向上し増加したものとする。</p> <p>(3)2020年度卒業生の司書資格取得状況 16人の卒業生が司書資格を取得した（現代文化学部6人、服装学部5人、造形学部5人）。</p> <p>(4)司書課程受講生のアンケート調査の実施 1年生向け科目「図書館概論」受講生に司書課程を受講する動機等の把握の調査を行い、28人が回答した。その主な結果は以下のとおりで、学生の意向を反映した授業内容を工夫する。</p> <p>① 司書課程の履修理由は、司書資格取得23人、興味のある科目がある2人など。 ② 他に取得したい資格は、学芸員12人、教職8人など。 ③ 司書資格取得を考えた時期は、大学入学前11人、入学後17人だった。 ④ 将来の職業との関係は、資格を生かし図書館等で働きたい2人、資格を生かせる職場で働きたい6人、資格には特にこだわらない20人、という結果だった。</p> <p>2. 履修者向けに司書採用情報やアルバイト情報を収集したが、コロナ禍もあり成果はなかった。2019年度から始めた図書館のSA（スチューデントアシスタント）に受講生が採用されたが、コロナ禍で図書館の夜間開館が減ったため、日数は減少した。 【大】</p>
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<p>1. 司書課程の授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>

■検討組織名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月18日	1. 司書課程ガイダンスの配付資料について 2. 司書課程の履修登録について 司書課程履修中の学生への対応 3. 司書課程の履修登録について 新入生への対応
2020年4月25日	1. 司書課程授業の登録・開講状況（前期）について 2. 2020年度司書課程の教員体制と研究室体制について 3. 2021年度以降の司書課程教員体制について 4. 2020年度司書課程履修者について 5. 夏季休暇中の集中講義の実施について 6. 「児童サービス論」の講師について
2020年7月24日	1. 前期履修状況、学生対応について 2. 後期授業実施方法の検討、「児童サービス論」実演休止等の対応について
2020年10月27日	1. 司書課程授業の開講状況（後期）について 2. 2021年度時間割（案）について 3. 2021年度のA館11階PC実習室の利用について
2021年1月29日	1. 「図書館概論」受講生のアンケート結果について
2021年3月12日	1. 2021年度時間割（案）について 2. 2020年度卒業生の司書資格取得状況について 3. 2020年度司書課程専門委員会の自己点検・評価報告書（案）について 4. 2021年度司書課程ガイダンスの内容・方法・配付資料について（4月6日、7日実施）

■ 検討組織名：国際交流委員会

報告者：石田 名都子

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外提携校との交流ができなかったため、具体的な検討をするには至らなかった。 2. 2020年度の特別留学プログラムによる留学を見合わせる事となったため、FITへの留学予定者3人、及びAUBへの留学予定者2人については、2021年度に実施できるよう留学の権利を延長し、新規の募集は行わなかった。さらに、2021年度の留学についても、実施を見合わせる事とした。 不測の事態ではあるが、留学することを目標に入学してきた学生にとっては、目標が達成できずにいる状況であるため、そのような学生への希望に応えられるような支援策を、各校と連携をとりながら検討する必要がある。 また、留学の促進については、FITより語学レベル見直しと語学力判定試験の追加の提案があり、オンライン試験で実施されている「Duolingo English Test」を追加することとした。これにより、語学力判定試験の受験がしやすくなることが想定されるため、留学を希望する学生にとっては、申請するまでに語学のレベルアップをすることが容易となった。 3. 「リスクマネジメントマニュアル」の見直しなど共通課題の検討が必要であるが、2020年度も連携を検討するまでに至らなかった。引き続き、共通課題について、文化・語学研修専門委員会や他の海外研修プログラムとの連携を検討する。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援及び安全な留学実施対策を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修専門委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2020年9月8日	<p>1. 2020年度のAUB及びFIT特別留学プログラムの実施について 2. 2021年度のAUB及びFIT特別留学プログラムの募集について</p>
2021年3月9日	<p>1. 文化学園大学FIT特別留学プログラム実施要項の変更とプログラム内容について 2. 語学力判定試験の追加について</p>
2021年3月18日	<p>1. 2021年度のAUB及びFIT特別留学プログラムの実施について 2. 2022年度のAUB及びFIT特別留学プログラムの募集について</p>

附 属 機 関 等

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代システムの導入 5. 学内行事、業務への協力 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 3. (1)入退館システムの更新（学生証・職員証の IC 対応）により、入館はカードをタッチする簡便な方法となった。また、退館ゲートは自動で開くようになり、手を触れるの必要がなくなった。 (2)新しい時代にあわせたサービスの展開をはかった。スマートフォンで利用可能な電子ブックの活用促進のため、メールで利用登録を受け付けた。その結果3月1日現在565人が登録し、2019年度末の7.5倍となった。図書館システムの利用者サービス(MyCARIN)の登録促進をはかり、在架予約を導入した。事前に予約することで滞在時間の短縮にもなり、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として宅配貸出をスムーズに始めることもできた。ブックポストを常時利用可能とし、返却はブックポストの利用を促すことで、入館人数をなるべく抑えることに繋がった。宅配貸出は課題としていなかったが、学生の学修のために送料を図書館負担で行った。3月1日現在360人1147冊の利用があった。文献複写物の郵送、オンラインレファレンスの受け付けを始めた。外部講師によるセミナーをオンライン形式で開き参加者は5回で235人だった。図書館ホームページに「オンラインで利用・申込できるサービス」のページを作成した。 (3)図書館は4、5月を閉館とした。6月から7月8日までは通常開館、7月9日より空調設備工事期間を含めて9月2日まで閉館し、9月3日より限定入館（予約制）で開館した。11月2日以降は在館者数を最大40人に制限し予約不要とした。 2. (1)図書館開館70周年事業として、貴重書デジタルアーカイブで所蔵錦絵楊洲周延作品154点を3回に分けて公開した。公開日2020年7月1日より2021年2月末日までのアクセス数は399件である。 (2)文化学園リポジトリサーバをJAIRO Cloudに移行して利便性、セキュリティが向上した。 (3)SSL-VPN設備を新しい機器に交換した。館内のデータベースを学外から利用することができる仕組みであり、自宅からのアクセスが可能となることで昨年までごくわずかだった利用件数が2020年度2月末日現在で1672件となった。 3. 収蔵環境の管理の一環として、教員からの要望に応え、建築分野の雑誌合本2誌を11月に小平から新都心へ移動した。 4. 目録情報システム(CAT2020)の導入を実施、8月にシステムをバージョンアップして対応した。また、染織関連の76件の古いデータを標準データに修正した。 5. 文化祭展示に代わるものとして、貴重書デジタルアーカイブに追加した錦絵を11月2日から約1か月間5回に分けて展示した。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システムの検討 5. 学内行事、業務への協力 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	会議等の開催記録（図書館委員会）
2020年6月30日	1. 2019年度業務報告 2. 2020年度業務計画・資料費予算決定報告 3. 2020年3月以降の新型コロナウイルス感染症対応について
2020年12月1日	1. 2020年度業務計画進捗状況報告 2. 2021年度業務計画（案）・資料費予算（案） 3. 2021年度図書館カレンダーについての審議（2021年2月9日教授会承認）

開催年月日	会議等の開催記録（部会）
2020年4月1日	1. 2020年度図書館業務計画 2. 組織編成・業務グループ担当発表 3. 各課業務分担発表 4. 各課報告 5. 業務グループ報告
2020年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
2020年6月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 入館システムの入替 4. 新型コロナウイルス感 染症拡大防止対策
2020年9月1日	1. 組織編成 2. 9月以降の図書館サービス 3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
2020年9月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 図書館委員会報告 4. SSL-VPN装置の交換 5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
2020年11月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 3. 2021年度業務計画・予算案審議
2021年1月29日	1. 各課報告 2. 業務グループ報告 4. 閲覧室水漏れ事故の経緯と対処報告

開催年月日	会議等の開催記録（運営会議）
2020年4月6、22日	1. 緊急事態宣言中の図書館の対応 2. 図書館委員会 3. オンラインガイダンス
2020年5月12、22日	1. 各課報告 2. 宅配貸出 3. 空調設備改修工事工程表確認 4. 6月の開館
2020年6月10、26日	1. 各課報告 2. 文化学園リポジトリサーバの移行 3. 空調設備改修工事工程表確認 4. 図書館委員会
2020年7月8、22日	1. 各課報告 2. オンラインセミナーの開催 3. 図書館だより 4. 空調設備改修工 事に伴う仮事務室について
2020年8月28日	1. 各課報告 2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえた今後の図書館サー ビス 3. 組織編成
2020年9月9日	1. 各課報告 2. 研修 3. 貴重書デジタルアーカイブ
2020年10月7日	1. 各課報告 2. 研修 3. 10月後半以降の開館時間について
2020年11月 11、18、25日	1. 各課報告 2. 2021年度予算編成 3. 2020年度予算消化状況 4. 2021年度業務計 画案 5. 図書館委員会 6. 11月後半以降の図書館サービスについて
2020年12月2、9、16日	1. 各課報告 2. 2020年度予算消化状況 3. 1月以降の図書館サービスについて
2021年1月13、26日	1. 書庫について 2. 各課報告 3. 2020年度予算消化状況 4. 空調設備改修工事
2021年2月9、24日	1. 各課報告 2. 2020年度予算消化状況 3. 学園創立100周年記念事業への協力
2021年3月9日	1. 各課報告 2. 2020年度予算消化状況 3. 2021年度組織編成・業務分担 4. 2021 年4月以降の開館時間

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館設備のリニューアル計画として、新規導入した空調の省エネ運転、展示ケースの修理及び飛散防止ガラスへの交換、北竜湖資料館（分館）の維持管理について関連部署と連携して検討を進める。 2. 新宿文化クイントビル地下3階収蔵庫、F館地下収蔵庫、小平キャンパス内保管室の3か所において、収蔵品の重要性に合わせた効率的な収蔵を推進する。 3. 事業の効率性、継続性を確保するためOJT教育を推進する。 4. 学校教育における博物館展示の利用機会向上を目指し、新しい展示運営方法及び情報発信を実施する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空調の省エネ運転は、施設部と連携して温湿度の安定管理と電気料金の低減化の両面から運転条件を検討した。その結果を踏まえ、2021年度に温湿度の調整効果を高めるサーキュレーターを導入し、改善を進めることとした。展示ケースは一部ガラス板に飛散防止加工を実施した。北竜湖資料館は新型コロナウイルス感染症の影響で休館とした。今後、来館者増が見込めないこと及び建物の修繕が必要であることから、資料館としての機能を維持が難しいと判断し、収蔵資料の扱いについて検討を開始した。 2. 収蔵資料の整理作業を週1回のペースで実施した。資料の重要度及び教育・研究での利用価値から判断して、除却（寄贈、廃棄）を進めた。あわせて、重要度の高い資料を空調設備の整った新宿文化クイントビル地下3階収蔵庫へ移動した。 3. 経験年数の浅いスタッフに対して、博物館員全体の役割分担を見直し、グループ毎にOJT教育を実施した。また主要業務のマニュアルを再検討し、効率化と継続性を図った。 4. 展示運営について、①新型コロナウイルス感染症の感染防止策の実施、②来館学生数の増加を目指した教職員向けギャラリートーク（資料配信のみ）、③臨時休館日でも教育・研究利用が可能、④オンライン授業への対応、とする新たな取組みを導入した。また、新たな情報発信の手段としてオンライン授業における教材用コンテンツの提供を、いかに整備すべきか、検討を進めた。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症予防のためのルールのお知らせと実施の徹底を図り、安全な博物館活動に努める。 2. 設備の更新計画として、空調の適切な運転に関する検討を継続し、電力コストの削減に努める。展示ケースのメンテナンスと、飛散防止ガラス板への交換について継続検討する。 3. 新宿文化クイントビル地下3階収蔵庫、F館地下収蔵庫、小平キャンパス内保管室の3か所における、資料それぞれの重要性に合わせた効率的な収蔵を継続して進める。 4. 館内業務の効率化及び継続性を確保するためのOJT教育を継続して進める。 5. 学校教育における博物館展示の利用機会向上を目指し、適切な展示運営及び情報発信のあり方を継続して検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■ 検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
2020年7月18日 ～9月8日	「ヨーロッパ・モード」展を開催し、18世紀ロココ時代から20世紀末までのヨーロッパを発信元とする約250年の女性モードの変遷を紹介した。また特集として1960年代～70年代のモードを取り上げた。 会場：文化学園服飾博物館
2020年10月2日 ～12月18日	「世界の藍」展を開催し、世界でもっとも長くもっとも広範囲に用いられる植物染料のひとつである「藍」について、日本、アジア、アフリカ、中米など約40か国の藍染の衣装や布を用いて紹介した。 会場：文化学園服飾博物館
2020年12月4日	博物館運営・専門委員会を開催し、1. 2020年度 事業計画及び進捗状況、2. 2021年度 事業計画概要を報告した。10人の委員より報告に関する意見を聞き、今後の博物館運営及び企画について協議した。
2021年2月18日 ～4月22日	「ヨーロッパ・モード」展を開催し、18世紀ロココ時代から20世紀末までのヨーロッパを発信元とする約250年の女性モードの変遷を紹介した。また特集として19世紀末からの服装改革を取り上げ、活動的になり始めた女性のドレスやスポーツ服を展示した。 会場：文化学園服飾博物館

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・利用・収集・整理方法の検討 6. 外部倉庫（所沢、小平）移管の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営会議の開催 8. 人員補充についての検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各資料室(映像・テキスタイル・コスチューム)共にソーシャルディスタンスを保ちながら学内・学外に対しレファレンスを行い見学、利用者に対して利用方法や収集資料の認知を広めた。 映像資料室：教材用映像資料の収集（提供・購入）の公開。 テキスタイル資料室：テキスタイル産地その他企業提供による素材収集・配架、授業用・テキスト掲載用への貸出。 コスチューム資料室：学生制作作品、その他購入、提供を含めた教材用標本を収集・配架し授業その他教育関連に活用。また、外部貸出等の依頼にも対応。 企画室：学生支援企画展示 Studio oeuf を運営し、学内外での実施やネットを使用しての開催を行った。企業共賛のデザインコンテストは完全オンラインでの開催で実行した。 2. 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ、産地見学ツアー、展示会、企業協賛のデザインコンテスト、衣裳提供など次年度開催へ向けての打ち合わせをオンライン中心に行った。 3. 外部への有料情報公開対応として「文化学園ファッションリソースクラブ」を運営し一般利用者（会友）・卒業生（正会員）・企業（賛助会員）への会員導入を行った。学内広報誌「ファッションリソースセンターだより」を発行、学内及び来館者、入学希望者等に配布した。 4. 各資料室共にデータの追加及び調整をした。 5. 映像資料所蔵の廃止された機器による閲覧不可能なメディアのデジタル化推進を継続中。 6. 継続して検討。所沢倉庫分については一部登録番号など明記した。 7. 継続して検討。 8. 継続して検討。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・利用・収集・整理方法の検討 6. 外部倉庫（所沢、小平）移管の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営会議の開催 8. 人員補充についての検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■ 検討組織名：文化学園国際交流センター

報告者：古屋 和雄

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流内容の見直しと交流プログラムの開発を行う 2. 学内で海外講師の授業やセミナーを受ける機会を充実させる 3. 関連各部署と連携し、更なる情報の共有に努める 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 新型コロナウイルス感染症が、全世界に蔓延し国を超えての交流が不可となり特別留学プログラムを利用した米国 FIT、英国 AUB への留学は2020年度の実施は取りやめとなった。該当学生が2021年度に留学を希望する場合の受け入れ条件を引き続き確認している。また米国 FIT への特別留学プログラムの英語レベルが2021年度より変更になる。それに伴う単位内容等の相互確認を行っている。 2. 海外のオンラインセミナーの情報を学内にメールで配信することができた。イタリアのアカデミア・コスチューメ・エ・モーダ (ACM) の校長から自校の学生に向けたオンラインセミナーを特別に文化学園にも8回配信。またウールマーク・プライズはコンテストのファイナリストのためのオンラインセミナーやグラデュエート・ファッション・ウィーク (GFW) の主催団体グラデュエート・ファッション・ファンデーション (GFF) が実施するオンラインセミナーも本学の学生が特別に視聴することができた。また海外のコンテスト情報を学内に案内した。 3. 文化学園服飾博物館から展示作品に関する翻訳、文化学園図書館からリーフレットの翻訳依頼に対応することができた。特に文化学園服飾博物館の資料は、歴史的な背景や服飾の専門的なことを考慮しながらの翻訳作業で時間を要したが、職員が作業を分担するなどコミュニケーションを取りながら対応した。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2021年度)</p>	<p>1. オンラインによる海外提携校との交流や特別留学プログラムの検討 2. オンラインによる提携校の教員や関係者のセミナー、特別講義等の実施 3. 関連各部署との連携及び情報の共有に努める 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため渡航禁止や外出自粛、緊急事態宣言の発令に伴い、海外事務所長の来日が不可となり、オンラインで連絡を取り合っている。また各学校の業務が多忙となったためグローバル推進委員会の意見交換を休止した。</p>

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 知的財産の活用 (1) 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識向上を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。 (2) 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。</p> <p>2. 知的財産の保護管理 既所有及び新規出願する特許、実用新案、意匠、商標の管理について、外部専門家の意見を取り入れて改善強化を図る。</p> <p>3. 知的財産侵害行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、講演会による教職員への研修、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. (1) 知的活動の推進 本学の研究成果について、以下の特許出願を行った。 「救急服下衣および救急服下衣の動作快適性の改善方法」(2021年3月出願中) 【大】</p> <p>(2) 知的財産の活用についてのサポート 改正著作権法に基づき、授業目的公衆送信補償金制度の利用申請を行い、授業における著作物利用の対応を行った。 【共】</p> <p>2. 弁理士及び技術移転機関と連携し、以下3件について出願・更新の是非を検討、権利更新を行った。</p> <p>① 出願中「救急服下衣および救急服下衣の動作快適性の改善方法」 ② 特許第4198152号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」(更新) ③ 商標第5390269号「文化学園大学」(更新) 【大】</p> <p>3. (1) 知的財産に関する注意事項を資料にまとめ、全教職員に配信した。 ① 改正著作権法早期施行の概要と第35条の運用指針(2020年4月) ② オンライン授業における著作物利用の注意点(2020年10月) ③ 授業目的公衆送信補償金制度の概要(2021年3月)</p> <p>なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、講演会による研修は実施せず。</p> <p>(2) 知財センター運営委員会規程を改定して各学校の教員を加えた組織とし、知財に係る知見が教員間で蓄積・共有され、学生への教育指導と繋がる体制づくりを図った。</p> <p>(3) 卒業論文、卒業展における著作物の利用状況を調査した。</p> <p>(4) 著作権等、知的財産に関わる学内の個別相談に対応した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 (1) 特許、実用新案、意匠、商標等の知的財産権について教職員の意識を高め、高等教育機関としての知的活動を推進する。 (2) 文化学園の諸活動において、知的財産の活用についてのサポートを行う。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 知的財産侵害行為の防止 他者の著作物の無断使用や模倣等、知的財産権の侵害にあたる行為を防止するため、教職員への啓発、そして教職員から学生への教育指導と繋がる周知活動を推進する。 【共】</p>

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
2020年7月2日	文化学園知財センター小委員会 1. オンライン入学相談会における著作物の利用について
2020年9月15日	文化学園知財センター小委員会 1. オンライン文化祭での著作物の利用について 2. 著作者人格権と個人情報の取扱いについて 3. 企業研修における著作物の利用について
2020年10月12日	文化学園知財センター運営委員会 1. 2019年度報告 (1)権利化活動 (2)権利更新・管理 2. 2020年度活動 (1)知的財産の権利化の推進 (2)権利更新・管理 (3)著作権侵害行為の防止 (4)授業目的公衆送信補償金制度 3. オンライン上での教育成果の公開における著作権への配慮について 4. 学生への著作権教育について 5. 著作権等侵害罪の非親告罪化について 6. 授業目的公衆送信補償金制度の有償化について
2020年11月19日	文化学園知財センター運営委員会 1. 「パンツパターンの作製方法」の審査請求について 2. 規程改定について (1)知財センター規程 (2)知財センター運営委員会規程 (3)職務発明取扱規程
2020年12月16日	文化学園知財センター小委員会 1. 教員研究発表会における著作物の取扱いについて 2. オンライン卒業展における著作物・肖像権・個人情報の取扱いについて
2021年1月14日	文化学園知財センター運営委員会 1. 授業目的公衆送信補償金制度について 2. 「改正著作権法第35条運用指針」について
2021年2月26日	文化学園知財センター小委員会 1. 作者・所有者が著作権を放棄した作品（CCゼロ）の取扱いについて 2. 引用の要件について 3. オープンキャンパスでの模擬授業における著作物の利用について 4. 写真の著作権と肖像権について 5. 他者の管理物の撮影について 6. 研究における市販品の型紙分析について
2021年3月4日	文化学園知財センター運営委員会 1. 職務発明「救急服下衣および救急服下衣の動作快適性の改善方法」の権利化について

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 2. 地域と連携した活動の計画と実践 (地域対応グループ) 3. 環境や社会に配慮した教育の実践 (社会環境対応グループ) 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) 5. AP事業の計画と実施 (AP事業対応グループ) 6. 渋谷区との連携協定 (S-SAP) 事業の計画と実施 (S-SAP 対応グループ) 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 社会人基礎力チェックシートのアンケートを、大学3学部2年生と短期大学部1年生を対象に初めて全学的に実施した。集計結果は、3学部の学生と短期大学部の学生とも共通して、高評価は傾聴力、柔軟性と規律性という「チームで働く力」に集中し、低評価を示したのは「前に一歩踏み出す力」である働きかけ力、実行力や自分の考えを伝える発信力の3項目に集中している。本学の学生気質を象徴的に表している興味深い結果であった。 【共】 2. 地域と連携した活動の計画と実践 (地域対応グループ) 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、すべての事業を中止した。 【共】 3. 環境や社会に配慮した教育の実践 (社会環境対応グループ) 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、エコプロ2020参加を中止した。 【共】 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、すべての事業を中止した。 【共】 5. AP事業の計画と実施 (AP事業対応グループ) 文部科学省補助金事業のAP事業が2019年度で終了し、5年間の事業活動と2019年度事業の報告書をまとめ、文部科学省、日本学術振興会やAP事業受託大学、学内関係部署へ配布した。【大】 6. 渋谷区との連携協定 (S-SAP) 事業の計画と実施 (S-SAP 対応グループ) 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、すべての事業、イベントを中止した。 【共】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 2. 地域と連携した活動の計画と実践 (地域対応グループ) 3. 環境や社会に配慮した教育の実践 (社会環境対応グループ) 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) 5. AP事業の計画と実施 (AP事業対応グループ) 6. 渋谷区との連携協定 (S-SAP) 事業の計画と実施 (S-SAP 対応グループ) 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2020年10月26日</p>	<p>第1回 USR 委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各グループ報告：(1) 企業対応グループ：社会人基礎力チェックシートアンケートを学部2年生、短期大学部1年生対象に11月中旬にGoogleフォームを使用して実施する。(2) 社会環境対応グループ：2020年11月26日～28日に開催される「エコプロ2020」への参加を取りやめる。 2. Web文化祭について：USR推進室としてWeb文化祭に参加、USR推進室の活動を情報発信する。 3. 2021年度事業予算の件：2021年度事業計画についても2020年度同様に事業遂行は不透明であるが、一部事業を取りやめて2020年度予算案から減額して提出した。
<p>2021年2月4日</p>	<p>第2回 USR 委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各グループ報告：(1) AP事業グループ：文部科学省補助金事業のAP事業が2019年度をもって最終年度となり、5年間の事業活動と2019年度の活動報告書をまとめた。文部科学省、日本学術振興会、AP事業受託核大学校、学内関連部署に配布した。(2) 企業対応グループ：11月中旬に実施した社会人基礎力アンケート結果をまとめ、学内関係部署へ配信した。

共同研究拠点

■検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：米山 雄二

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 学園内の附属研究所を基盤とした総合研究力の向上 3. 本機構の所有する資料(主に図書)の貸出と管理方法の設定 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2020年度に予定していた共同使用を中心とした研究事業は、以下のとおり。 (1) 学園内公募型共同研究 本学園の研究分野が人体計測等対面での実験、国内外での現地調査が必要となる研究が大半であり、コロナ禍でそれらの研究遂行は困難となることが予測できるため、2020年度の公募は見送った。 (2) 若手研究者への支援体制 本機構は、学園全体(各学校)の若手教員の育成及び継続的に研究を進めることができるよう支援を行っており、2020年度は若手教員研究奨励金による研究助成5件について、研究費の交付に加え、本機構の研究企画委員がアドバイザーとなって、研究の推進をサポートした。また、2019年度同奨励金の研究助成4件の成果発表会を行い、同様にアドバイザーがサポートし、各研究者の研究推進の一助となった。 2. 本機構の運営委員会において学園内附属研究所5研究所(文化・服装形態機能研究所、文化・衣環境学研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所)の情報共有及び共通課題を検討し、研究の推進に努めた。研究者として、研究倫理、コンプライアンスについての教育は必要であり、学園内で同一の研修を受講することが望ましいため、2021年度より本機構主催の研究助成に関わる研究者は、文化学園大学の研究倫理研修、コンプライアンス研修の受講を義務付けることとした。 3. 本機構が所有する研究資料については、2019年度に引き続き、貸出中の資料を返却いただき、整理・確認を進めた。未返却資料がまだ存在しており、その対応策と今後の貸出し管理方法の設定を急ぎ、本機構の所有する資料を多くの共同研究員に利用していただくようにする。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 学園内の附属研究所を基盤とした研究の推進 3. 本機構の所有する研究資料(主に図書)の共同利用の検討 【共】</p>

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
2020年10月28日	1. 2020年度 第1回研究企画委員会 (1)2019年度若手教員研究奨励金成果発表会について 開催形式及び日時・司会進行担当の確認、アドバイザーの決定、成果報告書の様式の確認 (2)2021年度若手教員研究奨励金の募集について 交付予定数、募集開始日、応募締切り等のスケジュールの確認
2020年12月11日	1. 第9回 若手教員研究奨励金成果発表会 発表者 4人（文化学園大学1人、文化服装学院3人） 録画視聴期間（学園内希望者対象） 2020年12月18日～2021年1月31日まで
2021年2月19日	1. 2020年度 第2回研究企画委員会 (1)若手教員研究奨励金について 2021年度交付者の選出、申請者への評価コメントのフィードバック (2)文化ファッション研究機構主催の研究助成に係る研究者（各学校の教員）の研究倫理教育及びコンプライアンス教育の受講について 2021年度からの受講義務化を承認
2021年3月4日	1. 2020年度 第1回運営委員会 (1)2020年度事業報告 文化・服装形態機能研究所、文化・住環境学研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所、和装文化研究所、文化・衣環境学研究所、文化ファッション研究機構の事業報告 (2)2021年の事業計画 上記各研究所等から事業計画を報告 (3)2021年度若手教員研究奨励金交付者について 申請者の審査結果報告及び交付者の決定 (4)その他 2020年度共同研究員の新規登録者の報告 2021年度からの文化ファッション研究機構主催の研究助成に係る研究者（各学校の教員）の研究倫理教育及びコンプライアンス教育の受講義務化を承認

附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」の公募件数の増加策を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、服装学部研究発表会との連携を深め、研究発表と交流の場の拡大を図る。 3. 保有する研究設備の更新及び新規設備の購入を計画的に進めるため、科学研究費助成事業、及び共同研究・委託研究等の外部資金の獲得を推進する。 4. 外部からの共同研究・受託研究の手続き・承認プロセスの整備を継続検討し、2021年度導入を目指す。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度「学内研究プロジェクト助成金」は、2018年度に設定した目的、名称、助成上限金額、公表義務、申請者の条件のもと継続実施した、文化学園大学及び文化学園大学短期大学部に所属する教員が行う衣環境学に関する研究活動の推進を図った。2020年度の公募には4件の申請があり、審査の上、全4件を承認・採択した。しかし、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、1件の研究テーマについては2020年度の実施は難しいとの申請を受け、2021年度に研究期間を変更した。 2021年度の学内研究プロジェクト助成金については12月に公募を行い、3件の申請があり、審査の上、全3件を承認・採択した。2021年度は、研究期間変更の1件を含め、全4件の共同研究が実施される。 2. 2019年度に採択した4件の学内研究プロジェクトの研究成果の公表は、服装学部の学内研究発表会と連携することが定着し、2020年9月の学内研究発表会で2件、また6月の学外学会での発表1件が行われた。 3. 科学研究費助成事業への応募については、コロナ禍における授業対応を優先させるため、見送った。また、研究設備については部分更新を行い、今後も計画的に進めていく。 4. 外部との共同研究・受託研究は、研究テーマの性質上、人を対象とした実験となるため、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の点から実施が困難と判断した。このため、手続き・承認プロセスの整備は感染防止策の整備とともに2021年度に行うこととした。 【共】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所「学内研究プロジェクト助成金」の公募件数増加策を検討し、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、引き続き服装学部の研究発表会との連携を深め、研究発表と交流の場の拡大を図る。 3. コロナ禍の研究への影響の大きさに鑑み、今後に向け、感染症対策をとりつつ実験を安全に遂行するために必要な規程の整備を行う。 4. 保有する研究設備の更新及び新規設備の購入を計画的に進めるため、科学研究費助成事業、及び共同研究・委託研究等の外部資金の獲得を推進する。 【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2020年4月10日	2020年度学内研究プロジェクト助成金公募への申請4件について、研究代表者へ採択された旨を連絡。
2020年9月10日	2020年度学内研究プロジェクト助成金の研究期間変更事案についてメール審議。
2020年10月20日	第1回運営会議 2020年度の活動方針について協議、決定。
2020年11月10日	文化学園大学教授会にて、2021年度学内研究プロジェクト助成金公募について告知。
2021年3月11日	第2回運営会議 2021年度学内研究プロジェクト助成金の申請3件について審査を行い、3件を採択。 これまでの助成対象研究に関する研究成果の公表について確認。 2020年度学内研究プロジェクト助成金の研究概要及び決算報告書について確認。 2021年度に向けて、活動方針ならびに公募への応募者数増加に向けての方策を検討。

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらいVol.8」の見直し、及び「Vol.9」への準備 5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度から公募範囲を全学として、下記の3カテゴリーに分けて公募した。 <ul style="list-style-type: none"> <Ⅰ. 共同研究(教材開発を含む)>：学内外の複数人で行う共同研究 <Ⅱ. 共同制作(教材開発を含む)>：学内外の複数人で行う共同制作 <Ⅲ. 若手による研究・制作>：40歳未満の教員(助手含む)が代表者で行う共同研究・制作。 <p>その結果、研究所運営会議において下記の6件の研究が採択されたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により下記のうち2件の共同研究が実施できなかった(③、⑤)。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アニメーション・ワークショップの実施環境と教材の研究<Ⅰ> ② 大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年的変化に関する研究<Ⅰ> ③ 長野県須坂市における古民家再生プロジェクトに関する研究<Ⅱ> ④ 3D・CG技術を使用したファッションデザインのためのツール開発・作品製作Ⅱ<Ⅱ> ⑤ 地域活性化と文化的地盤形成に関わるアートの可能性<Ⅲ> ⑥ 戦後日本における建築文化の創造過程とその背景に関する研究<Ⅲ> <p>しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大されている中でも当初の研究計画を柔軟に変更しつつ4件の研究を実施できたことは評価できる。</p> <p>これらの研究については、2021年度以降の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。</p> <p>本学文化祭での研究助成を行った共同研究(2018～2019年度)のパネル展示は、全学的にオンライン文化祭へ変更されたことに伴い実施しなかった。</p> 2. 上記研究テーマのうち実施できた②⑥は学外者も参画する共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。 3. 上記研究テーマのうち、④⑥は若手教員も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたことは評価できる。 4. 所報「しつらいVol.8」の見直しを行い、「しつらいVol.9」の発行に向けての準備を行い、予定どおり2021年度に「しつらいVol.9」を発行するべく作業を進めたことは評価できる。 5. 新規企画として講演会等を予定していたが、コロナ禍ということもあり2021年度以降に見送ることとなった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらいVol.9」の発行 5. 文化・住環境学研究所主催の講演会・見学会等の新規企画の準備 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2020年11月4日	1. 2021年度共同研究の公募要領の確認 2. その他
2020年11月11日	1. 2021年度共同研究の公募6件の報告と確認 2. その他
2021年3月18日	1. 2020年度共同研究の実施報告 2. 所報「しつらいVol.9」の発行に向けての準備 3. 2021年度の事業計画 4. その他

■検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

報告者：宮本 英治

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り技術」の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2019年度の実績約220件以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数30点以上を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存のために各種資料のデジタル化に日常的に取り組み、約200件をデジタル化した。 2. 研究所独自のテキスタイル開発を日常的に実施し、多重織・ドビー織などの斬新なテキスタイルを約30点開発した。 3. 「株式会社リューズテン」と協働して開発したテキスタイルを使用した服が、春夏と秋冬2回のプレゼンテーションや展示会で披露され、高評価を得た。 4. 八王子織物産地・丹後産地などの織物関連業者へのテキスタイル開発や活性化のための研修・技術指導・見学受入れなどを実施した。 5. 文化学園大学をはじめ文化学園の教員や学生の見学・研修を受入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことができた。 文化学園学生の卒業制作のためのテキスタイル作りを指導した。 【共】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2020年度の実績約200件以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数20～30種類を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義・学生の服作りのためのテキスタイル制作を実施する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2021年2月26日</p>	<p>第1回文化・ファッションテキスタイル研究所 オンライン運営委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度の専任研究員の紹介 2. 研究所来所者件数・人数等について 3. 2020年度事業報告にて「リューズテン」との共同研究や八王子産地・島根産地活性化活動について 4. 2021年度事業計画について 5. オンラインでの研究所活用方法などについて

■検討組織名： 和装文化研究所

報告者：近藤 尚子

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・実施する。 【共】</p> <p>2. 和装関連科目の充実を図る。新カリキュラムでの運用開始年度を迎えるので、検証しつつ進めたい。 【大】</p> <p>3. 「ゆかたウィーク」「勝手にキモノの日」「着付教室」「研究会」などのイベントを継続開催する。2018年度に中心的役割を果たしていた学生が卒業してしまうため、学生をいかに巻き込むかが課題である。 【共】</p> <p>4. 外部との連携強化を図る。 【共】</p> <p>(1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。</p> <p>(2) 榊三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。</p> <p>5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。 【共】</p> <p>(1) 研究課題の公募を継続する。 【共】</p> <p>(2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。2019年度に続きリソースセンターの資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、様々な対応を迫られた。課題の一部は十分な取組みができなかった。それらは継続して2021年度の課題としたい。</p> <p>1. 大学の科目としては「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」を運営した。また、コラボレーション科目との「きものコーディネート入門2020」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう2020」を、新型コロナウイルス感染症対策のため内容や形態を変更して実施した。 【共】</p> <p>2. ファッションクリエイション学科の新カリキュラムに従い、2科目の増設と「和裁Ⅱ」の単位の増加を実現することができた。ただし、そのうち1科目は残念ながら履修者が少なく、非常勤講師の科目であったため開講しなかった。 【大】</p> <p>3. イベントはすべて中止とした。着付教室は5人ほどの希望者に随時実施した。 【共】</p> <p>4. きものブレインとの連携は2020年度も行わなかったが、2021年度以降の継続を確認している。 【共】</p> <p>5. 学園内のリソースのアーカイブ化を図った。2019年度から継続しているピエール・カルダン関連資料の調査、短大部ファッション学科研究室所蔵資料の調査・研究を行った。9月に一部を公開し、3月までの閲覧者はのべ約80人である。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・実施する。 【共】</p> <p>2. 和装関連科目の充実を図る。新カリキュラムでの新たな科目を検証しつつ進めたい。 【大】</p> <p>3. 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、「ゆかたウィーク」「勝手にキモノの日」「着付教室」「研究会」などのイベントを開催する。 【共】</p> <p>4. 外部との連携強化を図る。 【共】</p> <p>(1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。</p> <p>(2) 榊三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。</p> <p>5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。 【共】</p> <p>(1) 研究課題の公募を再開するための準備をする。 【共】</p> <p>(2) 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。リソースセンターの資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める 【共】</p> <p>(3) 2019年度末に中止となった文化服装学院の教員によるセミナーを開催する。 【共】</p>

事 務 局

■ 検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：清木 孝悦

提出日：2021 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (2020 年度)</p>	<p>1. 休学者・退学者を減らすための方策について、経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。</p> <p>2. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2016 年度～2019 年度間の退学者数が増加傾向にあるが、在籍者数に対する割合はほぼ同じである。また、退学理由としては進路変更（他機関への転学など）と経済的理由（学費未納除籍者を含む）が多く、次に就職等による進路変更であることは、この間変わっていない。2020 年度から始まった高等教育修学支援新制度により経済的理由による退学者が減少することが予想されるが、これまでの状況について十分な分析等ができていないため、2020 年度の退学者も含めた分析を行い、教員との連携のもと、退学者を減らす方策を検討する。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年度の授業はオンライン授業中心となったため、大学へほとんど登校することができなかったことが、学生の休学・退学にどのような影響があったのかも分析し、引き続き状況を把握しながら対策を検討する。</p> <p>2. 例年、日本私立大学協会等の研修会に職員を派遣していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの研修会が開催されなかったため、他大学等の状況や情報を得ることができなかった。研修会等が再開された場合は、積極的に参加し、さまざまな情報を収集したい。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021 年度)</p>	<p>1. 退学者等を減らすための方策について、退学者数等の経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討する。</p> <p>2. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

学 园 本 部

■検討組織名： 学園本部 総務部

報告者：佐藤 申

提出日：2021年3月26日

本年度の課題 (2020年度)	1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (継続) 2. 人事・給与制度改革 (継続) 3. 学園創立100周年に向けた取組 (継続) 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (1) 将来にわたり学園の多様な働き方に対応し、意思決定スピードを上げるために、業務改革支援室を立ち上げ、ワークフローをはじめデジタル化推進に向け調査を開始した。 2. 人事・給与制度改革 (1) 勤怠管理のクラウド化について検討を開始した。 (2) 就業規程はじめ、各学内規程の見直しを行っている。 3. 学園創立100周年に向けた取組 (1) 部局ごとに企画書の作成を開始した。 (2) 学園創立100周年記念サイトの作成及び法人サイトのリニューアルの検討をはじめた。 【共】
次年度への 課題 (2021年度)	1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (継続) 2. 人事・給与制度改革 (継続) 3. 学園創立100周年に向けた取組 (継続) 【共】

■検討組織名：学園運営会議

開催年月日	会議等の開催記録
2020年10月8日	業務改革プロジェクトについて
2020年11月12日	育児・介護休業等に関する規程の改定について E館の耐震補強工事について
2020年12月10日	総務部新組織について

■検討組織名：学園創立100周年記念事業企画委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2020年11月12日	学園創立100周年記念事業(案)と個別の担当について
2021年3月26日	各担当別の企画の説明と企画の検討

■検討組織名：学園本部施設部

報告者：山下 康浩

提出日：2021年3月31日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境の改善及び施設の安全対策を行う。 2. 引き続き耐用年数に応じた冷暖房用熱源設備の中長期計画を予算化して実施する。 3. 国際学生会館の統一管理標準に基づき、入寮募集活動の強化に努める。 4. PCB 特別措置法に基づく法定処分期間に基づき廃棄処分を実施する。 5. 産業廃棄物の削減及び再資源化の広報活動を推進する。 6. キャンパスの美化整備事業計画を推進する。 7. 高効率機器への更新計画と省エネルギー対策の事業計画を推進する。 8. エレベーターのフルメンテナンス計画が一巡し、将来計画を策定して安全を確保する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1) F館の老朽化した給水管の漏水事故防止のため、更新工事を実施した。 (2) 受変電設備の老朽化した設備について電気事故防止のため、設備更新を実施した。 2. (1) F館空調設備整備計画に基づき、図書館エリアの空調設備更新工事を行った。 (2) 中長期計画に基づき、ABC館空調機40台分の整備工事を実施した。 3. 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴い、一時待機寮を設定し留学生入国対応を行った。 4. 法定処分期間に基づき、計画的にPCB含有の高圧コンデンサー4台を処分した。 5. 大学で処分した机(2,200脚)、イス(2,800脚)をタンザニアの学校へリサイクルしたことにより大幅な産業廃棄物の削減になった。ゴミ箱を色分けし、分別がしやすいようにした。 6. (1) 新型コロナウイルス感染症のため学生の登校も制限していたため、投資的な対応はせず、現状の草花樹木維持管理を実施した。 (2) 新宿文化クイントビルとの連携により、桜並木、LEDイルミネーションを行いデザインの統一化を図った。 7. 2020年度は、中長期計画による各棟のLED化計画を作成した。 8. 2028年度より実施予定のエレベーターリニューアル工事に向け、継続的に保守点検し、安全を確保した。 【共】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育環境を確保するため建築・設備の中長期計画の基づく既存施設の整備工事を実施する。 2. 学園施設利用者の安全確保及び学園資産の保全のため、E館耐震工事を実施する。 3. 蛍光灯安定器の分離した高濃度低濃度PCB含有機器の処分作業を実施する。 4. D館の機械換気装置がない教室の新型コロナウイルス感染症予防対策として、ロスナイ換気装置を計画的に導入する。 5. 産業廃棄物の再利用と再資源化を継続的に行い、渋谷区清掃及びリサイクルに関する条例の可燃ごみ再利用率80%を目標とする。 6. 国際学生会館の入寮生については、4校との連携を図り、入寮可能数の確保のため継続的に募集活動をする 7. 学園内のバリアフリー対策を開始し、各校舎に車いす対応として、「誰でもトイレ」の設置や出入口開き戸を自動ドアにするための改修計画を開始する。2021年度はABC館南側出入口に自動ドアを設置する。 8. 各棟LED化を含めた、省エネルギー計画を継続的に推進する。 【共】

■ 検討組織名： 学園本部経理部

報告者：秋元 雅則

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」の改正を行い、付随する細則も検討を重ねる。 2. 学園の各部署の事業計画の進捗を確認しながら「中長期財務計画」の見直しを行う。 3. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による必要な対策及び措置を講じる。(新規追加) 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を行っている。 2. 各部署と協議し、2028年度までの「資金収支中長期財務計画」、「事業活動別中長期財務計画」を作成した。 3. オンライン授業受講のためのパソコン・インターネット環境の整備等へ全学生を対象に後期の学費から学修支援金として50,000円を減額した。 オンライン授業のための無線Wi-Fi設備設置等のインターネット環境設備の整備を行った。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」及び関連する細則の改正へ向けて、引き続き検討を重ねる。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、財務基盤の充実を図り、教育・経営環境の変化に対応した施設設備への投資や基本財産の入替えを行う。 3. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による必要な対策及び措置を講じる。 【共】</p>

■検討組織名：IT委員会（IT戦略室）

報告者：淵上 和子

提出日：2021年4月1日

<p>本年度の課題 (2020年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパスプランサーバの経年劣化によるサーバの入替を計画する。入替の際には現在の処理内容に見合ったスペックを検討する。 2. 2023年度のWindows Server 2012 R2サポート切れに伴うキャンパスプラン Ver7.5のバージョンアップについて検討を開始する。 3. 高等教育修学支援新制度の開始に伴い、システムでの対応方法について検討する。 4. 大学入学共通テストの実施に伴い、システム改修を行う。 5. 現状のシステム利用について見直し、ICTを利用した業務軽減の提案に努める。 6. 引き続き、ICTを利用した授業支援の提案に努める。(新規追加) 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年8月、経年劣化によるハードトラブルを防ぐと同時に、セキュリティ及び費用面で検討の結果、仮想環境へ移行することで、安価にサーバをリプレースすることができた。 2. 最新のサーバOSに対応した、次期キャンパスプラン製品の検討に入った。ソフト制作会社へ開発状況を確認しながら、2021年度も引き続き検討を行う。 3. 高等教育修学支援新制度について調査を行い、システム改修は不要と判断し、コストをかけずにシステム運用を確立することができた。 4. 2019年までのセンター試験から大学入学共通テストにシステムが変わったが、本学のシステム改修を行ったことで、事務作業が増えることなく入試処理を行うことができた。 5. 就職システムのカスタマイズ導入支援を行った。今後は各種統計資料作成時の業務負担の軽減が期待できる。 6. オンライン授業対応にGoogle MeetやGoogle Classroom等のGoogle Workspace(旧G suite)を利活用し、授業支援の提案に努めた。また、授業に必要なソフトの調達と協力をした。 【共】
<p>次年度への 課題 (2021年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次期システム「キャンパスプラン smart」の製品調査と検討を進める。 2. 現状の事務システムを見直し、ICTを利活用した業務軽減の提案に努める。 3. ICTの活用による、授業支援の提案に努める。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2020年9月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパスプランのバージョンアップについて 新たに開発されるキャンパスプラン smartに関する情報とリリース時期の情報提供があった。smartについての価格等の詳細な情報の提示は2021年度になる。
2020年10月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパスプランのバージョンアップについて 次年度のシステム検討スケジュールについて提案あり。本件は2021年度の検討とする。
2020年12月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職システム及び大学入学共通テストについて カスタマイズの内容及びスケジュールについて確認を行った。 就職システムのカスタマイズについて詳細を詰めた。
2020年9月4日 2021年2月24日	<p>IT委員会 会議は行わず、前期の活動報告とお知らせ文書をメンバーに送付</p> <p>IT委員会 会議は行わず、後期の活動報告とお知らせ文書をメンバーに送付</p>

附： 委員会委員一覧表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

2020年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部委員会委員一覧表

2020年4月1日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

	教 務	学生支援	入試対策	就 職	
1	服装造形学、生産工学、和裁	○平良木 啓子	△大橋 寛子	△寺嶋 朋子	田端 智香
2	短大部ファッション学科	佐藤 綾	野沢 さおり	木全 秀美	小出 恵
3	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画、テキスタイル、 機能デザイン学、服飾文化共同	金尾 佐和子	松井 有子	横田 香野子	渡邊 裕子
4	服装社会学 服飾文化共同、和装文化研究所	◎北方 晴子	工藤 雅人	下山 かおり	小林 幹彦
5	染織、金工、グラフィック・プロダクト デザイン・映像、絵画、基礎造形 造形・色彩学	松村 由樹子	山田 拓矢	鳥海 薫	岡部 隆信
6	建築・インテリアデザイン	渡邊 裕子	横山 稔	浅沼 由紀	谷口 久美子
7	語学、教育学・体育学、調理学、 和装文化研究所、(博物館学)	勝山 祐子	田辺 里枝子	○森谷 直樹	安藤 葉子
8	国際文化・観光A 国際文化・観光B	米井 由美	◎白井 菜穂子	小川 祐一	星 圭子
9	国際ファッション 応用健康心理学	△清水 美里	○菊住 彰	樋掛 英里	根本 賀奈子
10	教務部、学生部、就職支援一課	高野 博子	宮本 朱	相澤 浩子	吉田 和代 △池田 衛
学長 指名			八浪 美穂	◎高橋 正樹 清木 孝悦	◎丸茂みゆき ○中西 教夫

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学FD	研 究	研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	公開講座実行
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △押山 元子 伊藤由美子 近藤 尚子 申 恩泳 磯崎 明美 鹿島 和枝 北浦 肇 杉田秀二郎 梶田 貴子 下山かおり 清木 孝悦 円谷 葉子 高野 博子 二茅みゆき	◎昼間 行雄 ○スワット チャロニホソノニッパ △村上 剛規 吉田 昭子 久木 章江 田中 里尚 井上 昌恵 遠藤 典子 北岡 竜行 清木 孝悦 円谷 葉子 吉田 和代	◎高村 是州 ○安永 明智 ○曾根 里子 △井口 彰子 △後藤 望 △三品 和之 中沢 志保 砂長谷由香 岡林 誠士 嘉松 聡 古屋 則子 二茅みゆき 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○中沢 志保 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 永井 伸夫 本間 博 佐藤真理子 清木 孝悦 円谷 葉子	◎米山 雄二 清木 孝悦 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 原島 陽一 田村 照子 円谷 葉子 藤澤 千晶	◎米山 雄二 ○高橋 正樹 △藤澤 千晶 永富 彰子 渡邊 秀俊 石田名都子 中沢 志保 中沢 志保 近藤 尚子 清木 孝悦 秋元 雅則 佐藤 申 友利 光夫 円谷 葉子	◎安高 信一 ○佐藤真理子 熊谷 伸子 関口 光子 岡本 泰子 梶田 貴子 中島 敬子 二茅みゆき 藤澤 千晶 吉村 紅花

ハラスメント防止	障害学生支援
◎石田名都子 ○三島 万里 △千葉 悦子 安高 信一 佐藤 浩信 円谷 葉子 宮本 朱 吉田 和代	【相談員】 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 下山かおり 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 山根 愛

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程
◎矢中 睦美 ○由利 素子 △角田 薫 小林 未佳 松井 有子	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △曾根 里子 横山 稔 種田 元晴	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 久保田 文 ジョン・デビット・オー	◎星 圭子 ○加藤 薫 △畠山 理恵 白井菜穂子

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎森谷 直樹 ○白石 一徳 △五十嵐清子 北浦 肇 鳥海 薫 栗山 丈弘 中島 敬子	◎田中 直人 △岡島 奈音	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	国際交流	IT委員会大学小
◎申 恩泳 ○佐藤 真理子 三島 万里 鹿島 和枝 嘉松 聡 加藤淳之介 二茅みゆき	◎石田名都子 ○永富 彰子 △高野 博子 渡邊 秀俊 古屋 則子 佐藤 浩信 樋掛 英里 清木 孝悦 古屋 和雄 円谷 葉子	◎スワット チャロニホ ソラニッチ ○白井 信 △野沢さおり 柳田 佳子 曾根 里子 村上 剛規 岡林 誠士 高野 博子 山川あづさ

学部・学科・コース編成 (2020年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン専修 服装社会・文化専修 テキスタイルデザイン学専修 ファッションビジネス専修 服装機能学専修 グローバルファッション専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修 国際ファッション文化専修

文化学園大学

服装学部	ファッションクリエイション学科	3年次 アパレルフィールド プロデュースフィールド アドバンストフィールド 4年次 クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニクコース インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース
	ファッション社会学科	
造形学部	デザイン・造形学科	メディア映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース ジュエリー・メタルデザインコース
	建築・インテリア学科	インテリアデザインコース 建築デザインコース
国際文化学部 (2020年度生より 現代文化学部から 名称変更)	国際文化・観光学科	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科	

文化学園大学短期大学部

ファッション学科	
専攻科	ファッション専攻

入学定員・収容定員・在籍学生数 (2020年5月1日現在)

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	8
	被服学(博士前期)	20	40	33
	生活環境学(修士)	6	12	13
国際文化	国際文化(修士)	6	12	4

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服 装	ファッションクリエイション	300	1300	1151
	ファッション社会	140	580	552
造 形	デザイン・造形	120	480	486
	建築・インテリア	120	480	485
国際文化 (2020年度より現代 文化学部より名称 変更)	国際文化・観光	50	160	231
	国際ファッション文化	120	480	544
	応用健康心理	0	60	22

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
ファッション	—	50	130	76
専攻科	ファッション	20	20	0

全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (2020年度)

委員長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書記	押山 元子
	伊藤由美子
	近藤 尚子
	申 恩泳
	磯崎 明美
	鹿島 和枝
	北浦 肇
	杉田秀二郎
	梶田 貴子
	下山かおり
	清木 孝悦
	円谷 葉子
	高野 博子
	二茅みゆき

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -2020年度-

2021年8月1日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会